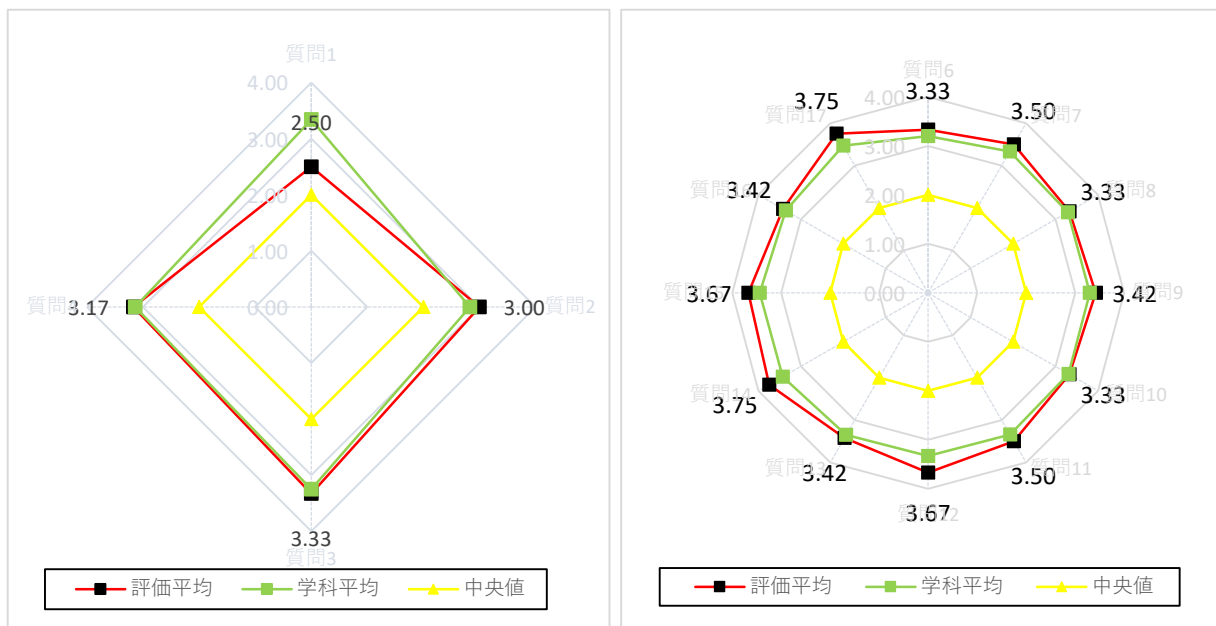


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		基礎演習あすなろう	27名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

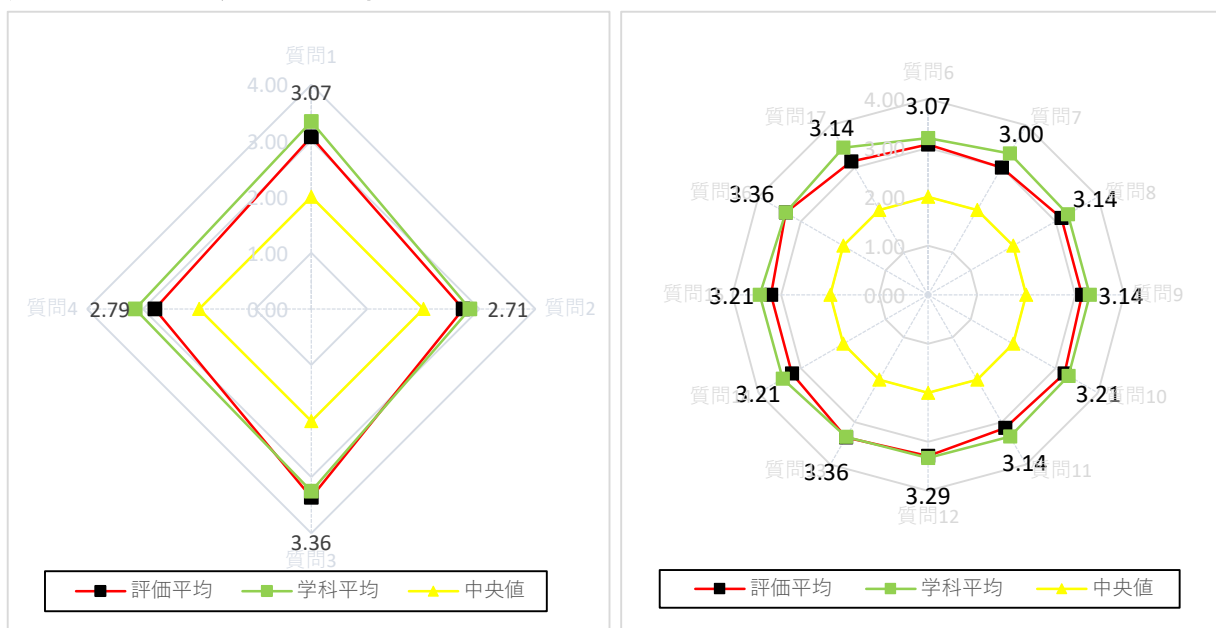
おおむね高い評価であった。リーディング・スキルを高めるための内容の工夫が必要。

(3) 次年度に向けての取り組み

レポートのまとめ方について、より力をつけるための指導が必要。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		基礎演習あすなろう	28名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

※あすなろう体験Ⅰとの共通で記入します。

全体としてやや低い評価になっています。低いところで気になった項目は、「質問7：教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。」「質問14：学生の質問等に誠実に対応しましたか。」「質問15：公平に学生に対応しましたか。」「質問17：教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」です。これらは授業方法云々というよりも学生たちと教員との信頼関係に依存するところになります。学生たちと話をしたり、気かけたりして、学生たちのニーズに対応できるように指導していく必要があるかと思えます。

授業内容としては、基礎学力の強化の部分が不十分であると考えています。

(3) 次年度に向けての取り組み

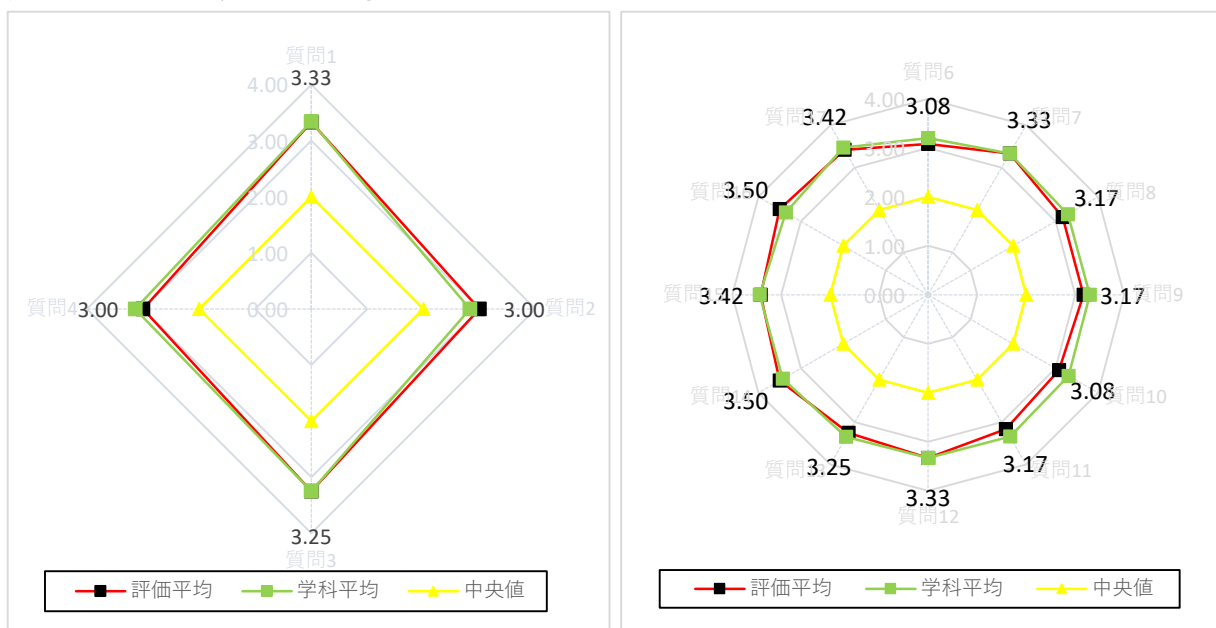
※あすなろう体験Ⅰとの共通で記入します。

学生たちとの信頼関係を築くということが一つの目標になります。授業以外でも、学生たちと話をしたり、気かけたりして、学生たちが考えていること、困っていることを理解するように努めます。

来年度はカリキュラムを変えますので、基礎学力の強化に対応できるようにします。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		基礎演習あすなろう	13名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

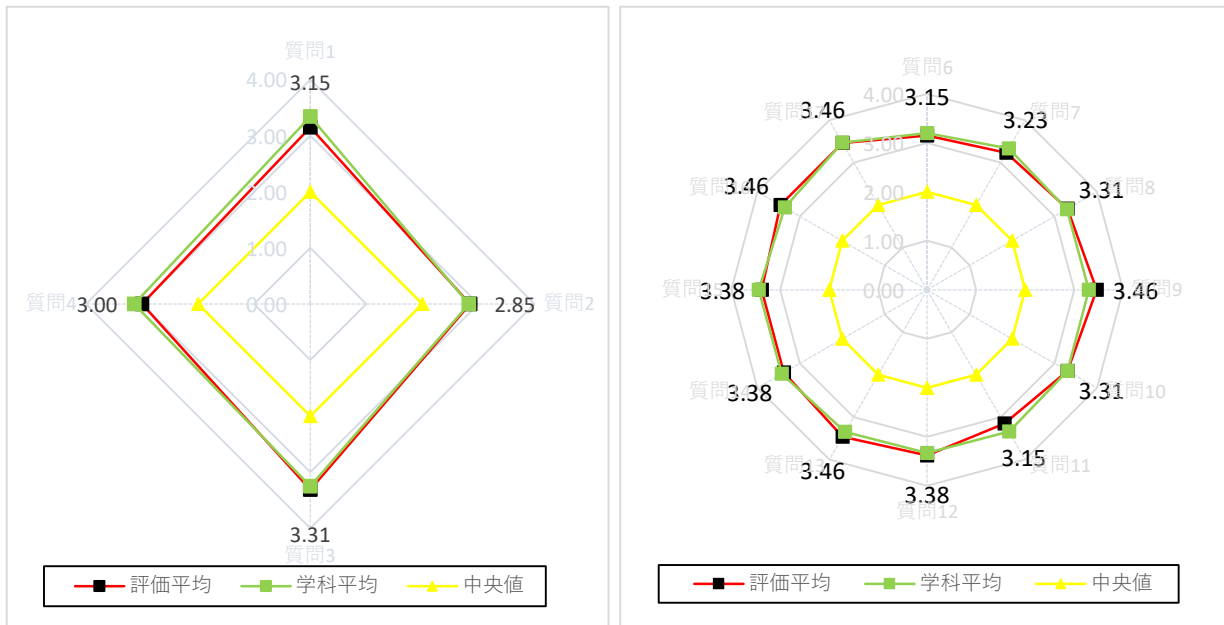
「質問4 あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」「質問6 シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」「質問8 授業は興味・関心が持てる工夫がされていきましたか。」「質問9 授業は分かりやすくする工夫がされていきましたか。」「質問10 視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。」「質問11 教科書・配布資料等は役に立ちましたか。」が、学科平均よりやや低い得点であった。担当学生の入学時の学習習得力の把握が弱く、ゼミ生間の学習スキルの差への考慮が必要であったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度より新たに国語力、数学力のテストが導入される。客観的データより学生の情報把握力を推察して、教材研究やモチベーションへの働きかけを行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		あすなろう体験 I (基礎)	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

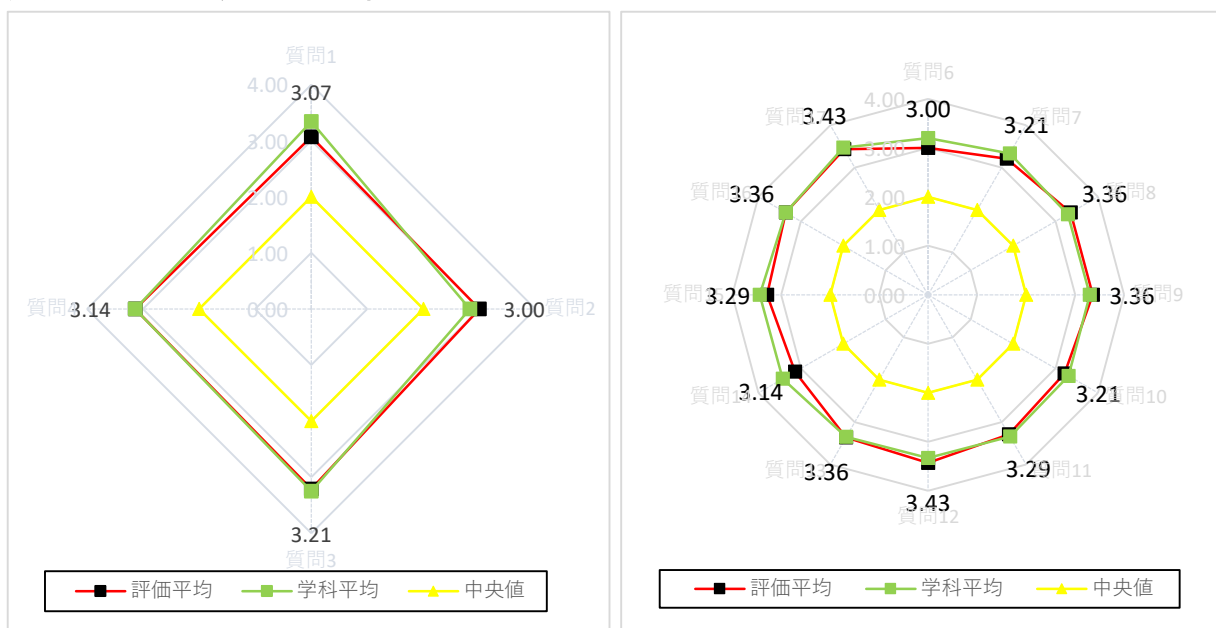
「質問1 授業は何回欠席しましたか。」「質問4 あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」「質問11 教科書・配布資料等は役に立ちましたか。」が、学科平均得点よりやや低い。特に教科書の使用は授業計画段階から少ないため、頻繁に利用することの工夫ができなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

教科書の使用頻度を、授業計画に応じて上げていくように努力する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		あすなろう体験 I (基礎)	28名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

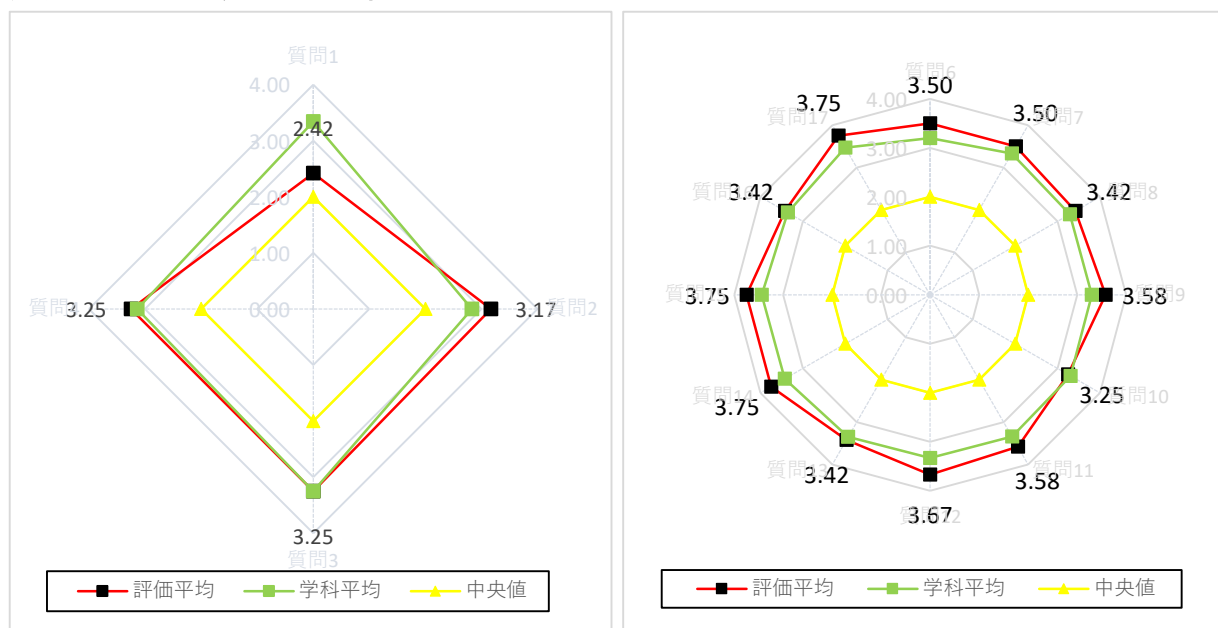
※基礎演習あすなろうとの共通で記入します。
あすなろう体験 I だけでみると平均的ですが、基礎演習あすなろうと合算するとやや低い評価になっています。低いところで気になった項目は、「質問7：教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。」「質問14：学生の質問等に誠実に対応しましたか。」「質問15：公平に学生に対応しましたか。」「質問17：教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」です。これらは授業方法云々というよりも学生たちと教員との信頼関係に依存するところになります。学生たちと話をしたり、気にかけてりして、学生たちのニーズに対応できるように指導していく必要があるかと思えます。授業内容としては、基礎学力の強化の部分が不十分であると考えています。

(3) 次年度に向けての取り組み

※基礎演習あすなろうとの共通で記入します。
学生たちとの信頼関係を築くということが一つの目標になります。授業以外でも、学生たちと話をしたり、気にかけてりして、学生たちが考えていること、困っていることを理解するように努めます。来年度はカリキュラムを変えますので、基礎学力の強化に対応できるようにします。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		あすなろう体験 I (基礎)	27名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

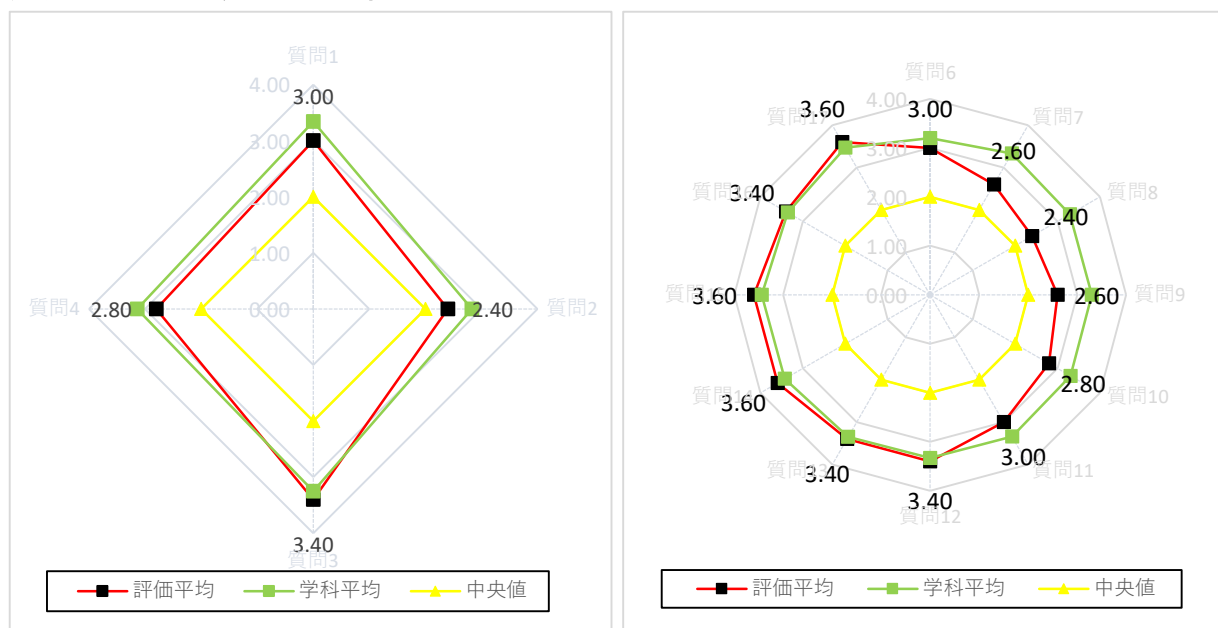
全体での外部講師の講義が多く、ゼミ単位での討議や競技の時間が少なかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

全体での外部講師による講義を聞いた後の小グループでの討議や協議の時間の確保。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		あすなろう体験Ⅱ（実践）	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

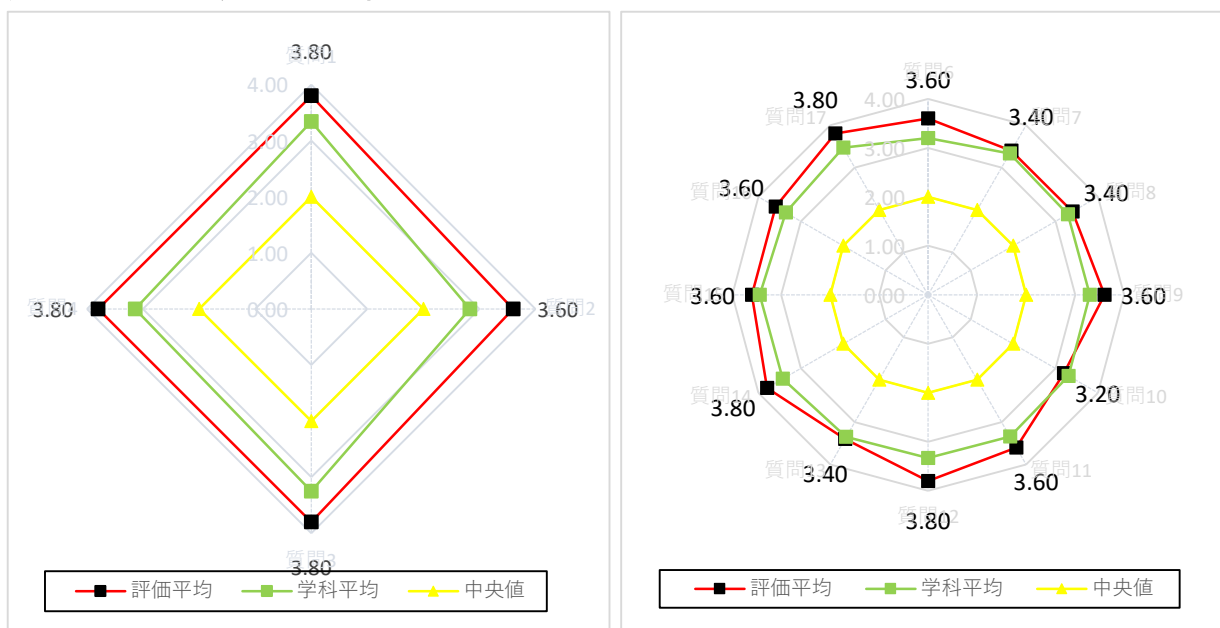
「質問7：教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。」 「質問8：授業は興味・関心を持てる工夫がされていましたか。」 「質問9：授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。」 「質問10：視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。」 「質問11：教科書・配布資料等は役に立ちましたか。」の項目が低くなっています。本授業は、インターンシップがメインであり、その事前指導・事後指導という形で行われています。事前指導は、インターンシップの登録の仕方やマナー研修、事後指導はインターンシップ報告会でした。その授業の特性上、上記の項目が低くなっていたと考えられます。

(3) 次年度に向けての取り組み

講義系の授業ではなく、基本的には実習指導の授業になるため、板書をしたり教材を使ったりすることはほとんどないのですが、とくに事前指導においてインターンシップ参加に向けたモチベーション向上の工夫を凝らしていく必要があるかと思えます。たとえば、インターンシップを経験した先輩から話を聞いたり、社会人の方からインターンシップの重要性などについて説いてもらったりすることが考えられます。キャリア教育と関連付けた指導ができるとさらに良い教育効果が期待できるでしょう。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		あすなろう体験Ⅲ（応用実践）	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

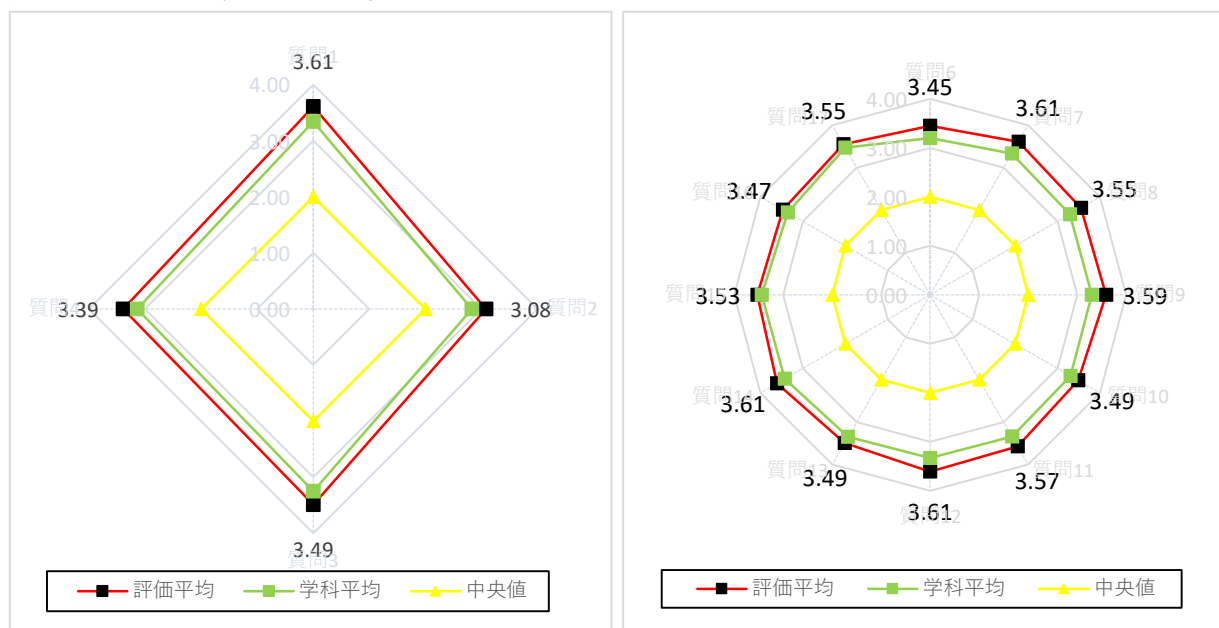
「質問1 授業は何回欠席しましたか。」「質問2 シラバス（授業計画）を活用しましたか。」「質問3 授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」「質問4 あなたはこの授業を理解するために自分で何か工夫をしましたか。」は、学科平均に比べかなり高い得点であった。また、「質問6 シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」「質問14 学生の質問等に誠実に対応しましたか。」「質問17 教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」についても、得点が高い。これは、学生に主体的に企画立案・運営を行わせ、そこに教員も同席しながらPDCAサイクルに則って授業展開したことの結果と考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度同様、学生の企画立案・運営を地域型授業で育成していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		心理学概論	50名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

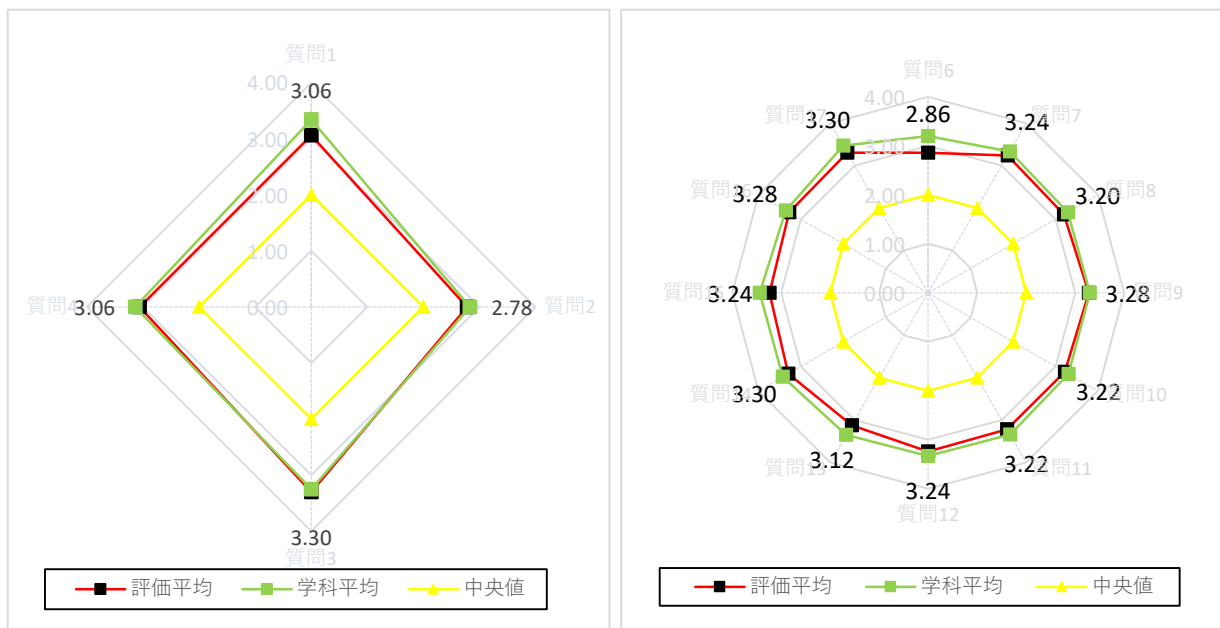
この授業は1年前期に初めて心理学に出会う授業であり、これから4年間かけて臨床心理学（カウンセリング）を学ぶ基礎となる科目である。そのために、わかりやすく興味を持ちやすくする工夫をおこなった。その成果として、すべての項目において、学科平均を上回る評価点を示している。特に突出して高得点を示したものは無い。シラバスは必ず授業の1回目には配布して説明し、毎回、シラバスに記載された到達目標と照合しながら、授業を進めていったが、もう少し活用したという自己評価があればと期待する。

(3) 次年度に向けての取り組み

さらに改善するとすれば質問4にある、学生自身が授業を理解するために自ら工夫をする、といった、能動的な学びの姿勢をいかに作っていくかという点であろう。今後、この点に留意しながら、授業を組の組み立てを改善したい。また、現代的な話題を常に意識しながら、次年度の授業のなかにも具体例として取り入れていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		特別支援教育総論	63名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

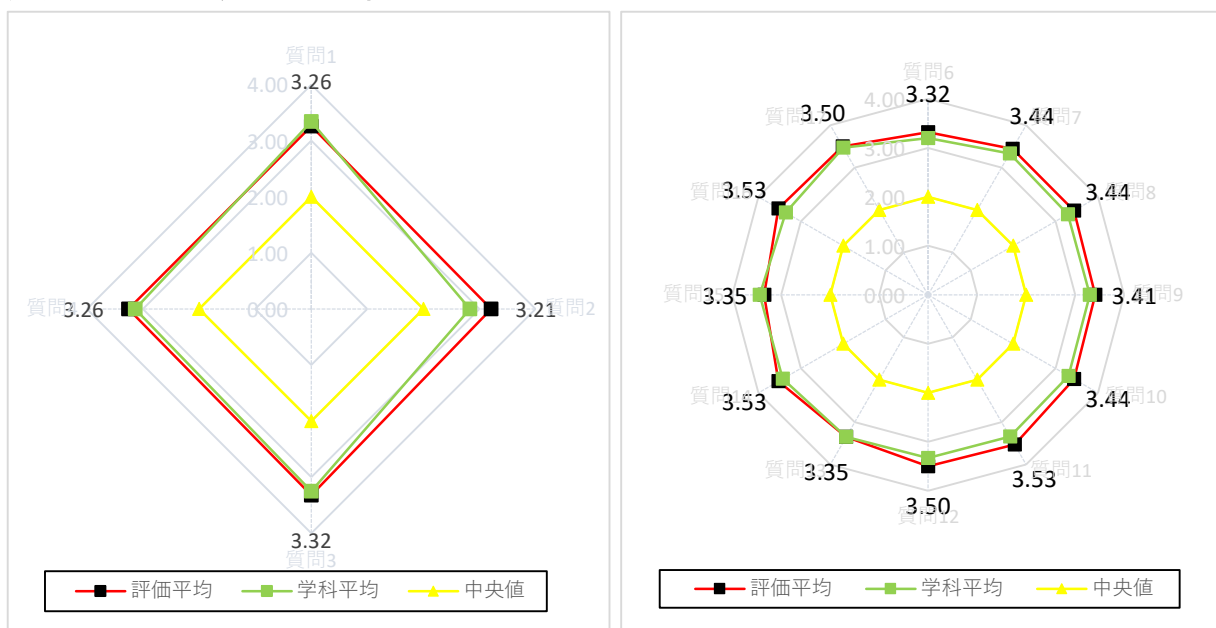
「質問6 シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」が、学科平均より低い。これは、授業が5名の教員（内 非常勤の教員が3名）でオムニバス形式で行っており、教員間の授業の進め方の共通見解がなされていないためと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度より、科目担当者を常勤教員1名で行う。そこで学生への授業内容の理解を深めていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		心理カウンセリング概論	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

学科平均との比較では、全質問とも学科平均より高い結果が得られている。中でも、質問10、11の資料が役に立ったという評価は、パワーポイント等の工夫をしながら資料を作成しているため今後の励みになる。また質問16の双方向的なやり取りをしながら授業を行っていることに対しても評価が高く、学生とのコミュニケーションを密にとりながら授業を組み立てて実施しているためこのような結果が出たと思われる。シラバス活用に関する質問の評価が全体の中では低く、今後授業を通して常にシラバスを学生にも提示しながら授業を進めていく必要性を感じた。

心理カウンセリング概論は、初めて専門的に学ぶ心理臨床の基礎であり、学生がカウンセリングに興味を持ちながら、心の支援の大切さを学んでもらえればと考えている。そういう意味で、評価も高く興味を持って受講していると捉えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

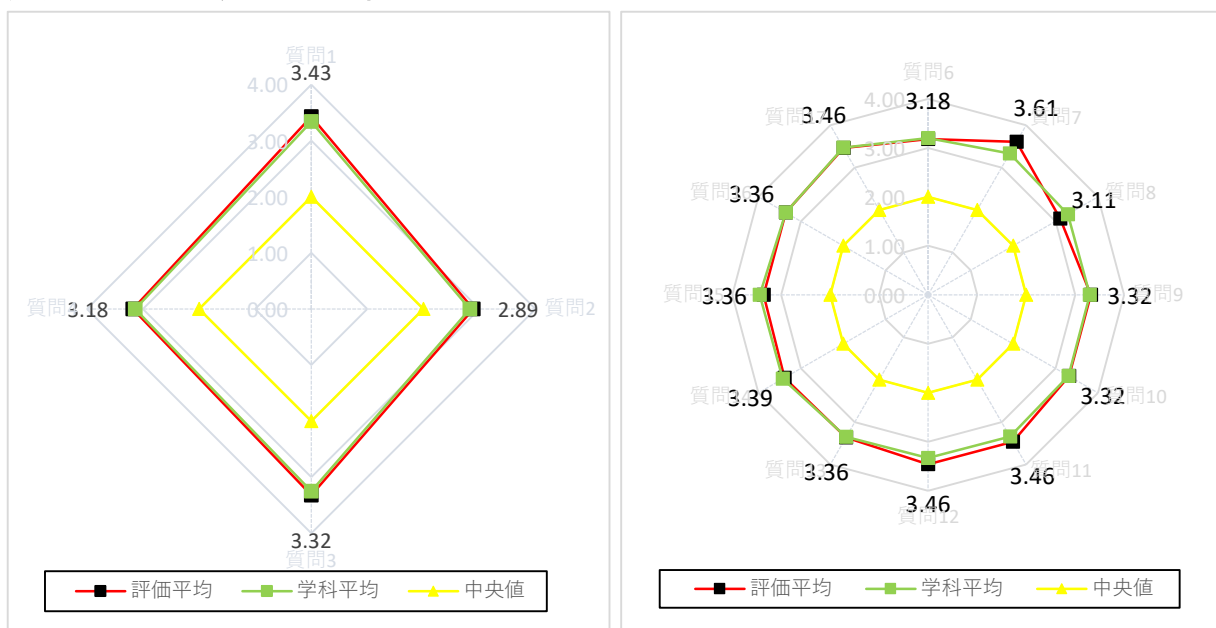
次年度も、資料やパワーポイントの工夫をしながらカウンセリングにおける知識と理解を促すような授業を展開していきたいと考えている。

シラバスに関しても、授業開始時に目標やねらいについてきちんと説明し、学生一人一人が授業の展開を理解できるよう説明を行って授業を始めたい。

また、新たにカウンセリングの演習を取り入れながら授業をすすめられたらと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		心理学統計法	54名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

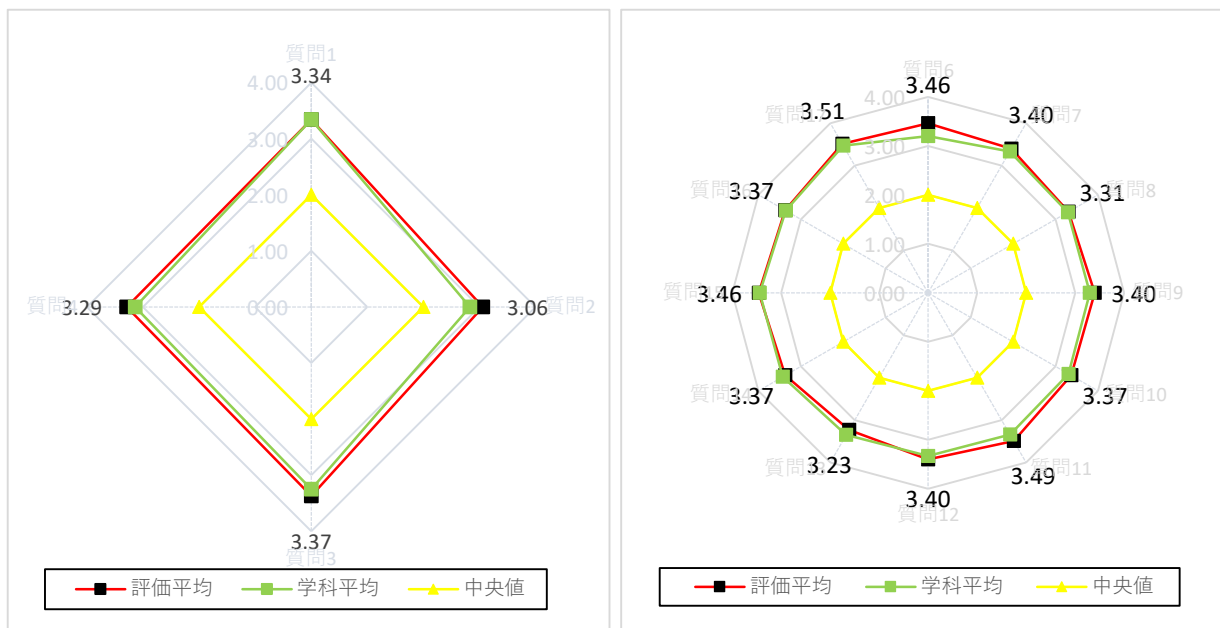
- ・すべての項目で3点以上の評価を記録した。
- ・質問7については、各回の終了時に行う小テストの出題ポイントを伝えながら授業を進めていたことが、到達目標の明確さの具現化として理解されたと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

当該授業は、3日間の集中講義として実施されたが、次年度は週に1度の通常の進行となる。次年度はこの構造の変化によって、教員側、学生側にどのような変化が生じ、どのような課題が生じるかを把握したい。また、心理統計学の知識や技能は卒業研究においていよいよその有用性が評価されると思うので、次年度末にはこの点について聞き取りを行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		心理学実験演習 I	40名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

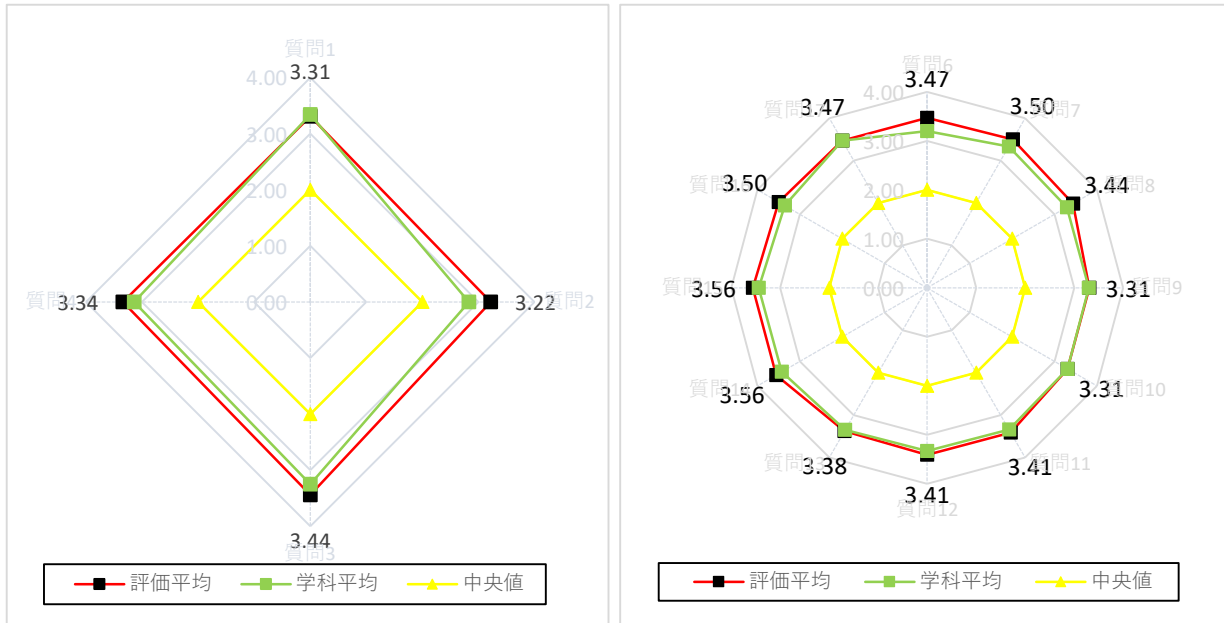
どの項目も、ほぼ学科平均と同様の評価であった。
 3名のオムニバスであったが、科目としての一貫した意図を伝えることができたのではないだろうか。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は担当が変わるため、また新たな視点・観点から展開していただきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		心理学実験演習Ⅱ	39名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

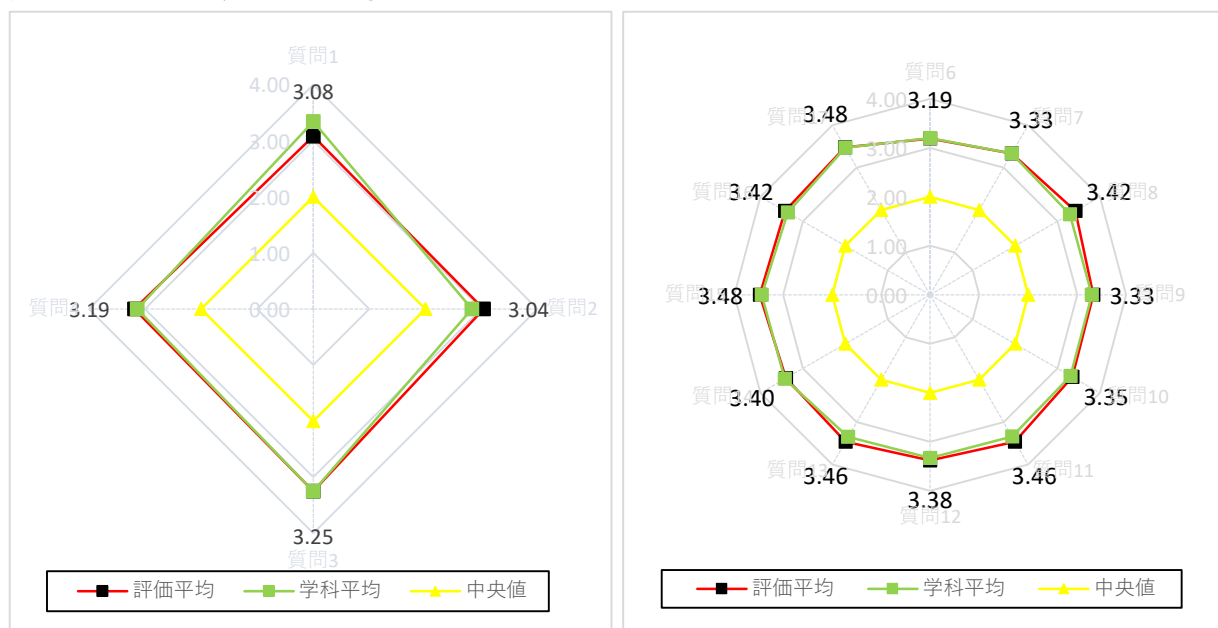
どの項目も、学科平均同等か少し上回る得点であった。「質問6 シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」は平均より高い得点であった。これは、毎回回目の授業の確認を、授業終了時に行い、学生への周知を深めたことが影響したと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も継続して、毎回のシラバスを用いた周知を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		カウンセリング基礎演習	54名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

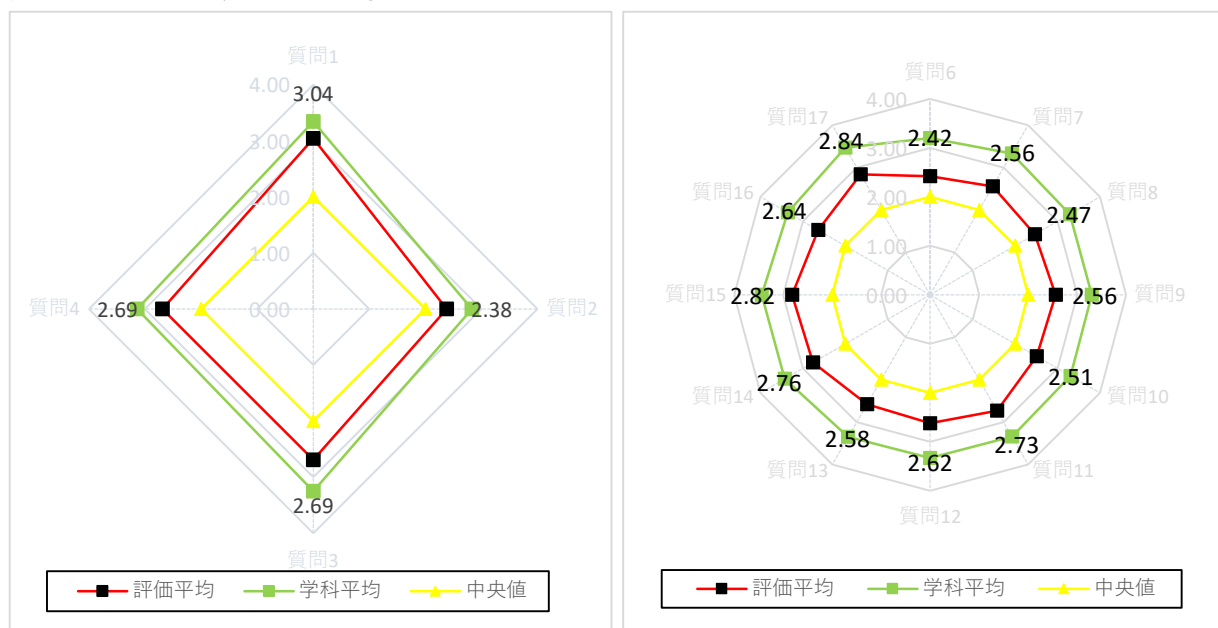
この授業は、カウンセリングを学び始める第一歩として、自己理解、他者理解を深めることをめざし、演習形式でさまざまな心理テストや体験授業を含んでいる。評価を見ると、全体として学科平均とほぼ同等の3.3前後の点数を示している。すなわち、極めて高い点数を示したり、極端に低い点数を示した項目はない。学生にとっては、果たして自己理解、他者理解がどの程度深まったか、その成果はここでは推し量ることはできないが、授業としては印象に残るような学びだったかどうか問われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後は、学生の能動的態度を育むような授業方法を工夫していきたい。そのことによって、質問4の評価に反映れると考える。質問8にある、興味、関心に関してももう少しテーマの選択、教材の選択を再考する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		認知心理学	56名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

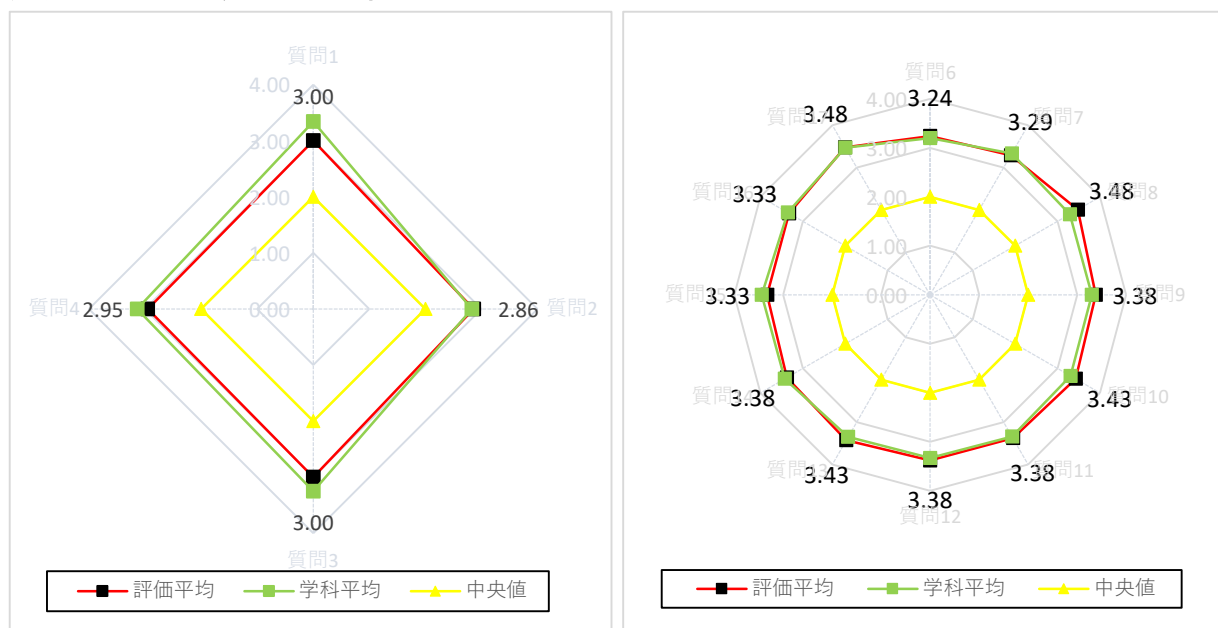
図からは、(1) 全体的に学科平均よりも低い評価である、(2) 質問6~17の平均はおおよそ2.5点であり、それを基準とすると、シラバスの説明・活用、授業目標の明確化、関心を持たせ・わかりやすくする工夫、視聴覚機器・板書の工夫、声の大きさ・明瞭さ・話す速さ、および、双方向の授業が相対的に低い評価である、の2点を読み取れる。(1)からは、平均値と中央値の乖離があること、標準偏差とNが不明であることを考慮すべきではあるが、授業方法・内容の全体的な底上げが必要と思われる。まずは(2)で指摘された項目に対するの改善が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の度にシラバスを引用して、授業内容・目的を明確にする。基本的には授業内容を解説したプリントを配布しているので、板書と口頭による説明に関して学生が理解し易いように工夫する。具体的には、板書はキーワードを並べるだけでなくなるべく文章化する、専門用語を減らしてなるべく日常の言葉で説明する、こちらからの質問を増やす、等が挙げられる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		神経心理学	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

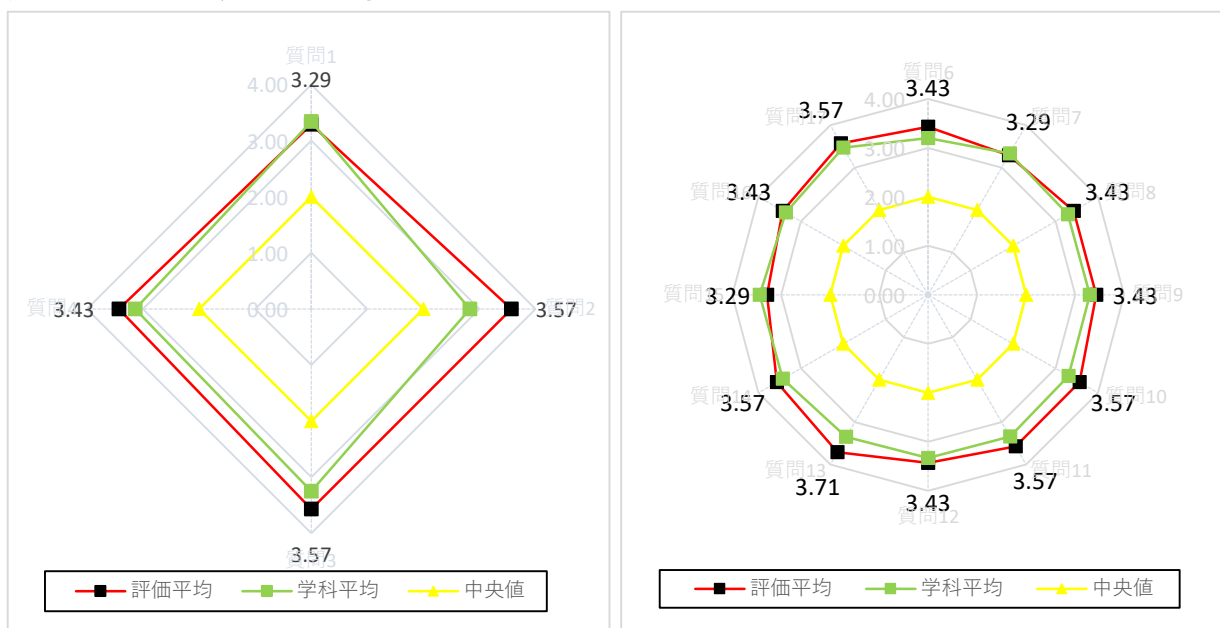
2月上旬の集中講義だった。春休みにかかるころだったが、それにもかかわらず受講した学生はそれなりに意欲をもっていたと思う。9時前から18時前まで連続5コマの授業だったが居眠りせず聞いていた学生が多かった。中には途中で放棄した者もいたが、最後まで聞きとおした学生の評価は高かったと思う。仕方なく最後までついてきた学生もいて評価が平均になっているように思う。全体がほぼ学科平均であり、5コマ3日連続の授業形態にしてはまずまずの評価を得たと思う。

(3) 次年度に向けての取り組み

集中講義の授業形態は変えられないので、興味関心を失わないよう、関連する視聴覚教材を適度に配置しながら学ぶ意識を持続させるようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		臨床心理観察実習	8名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

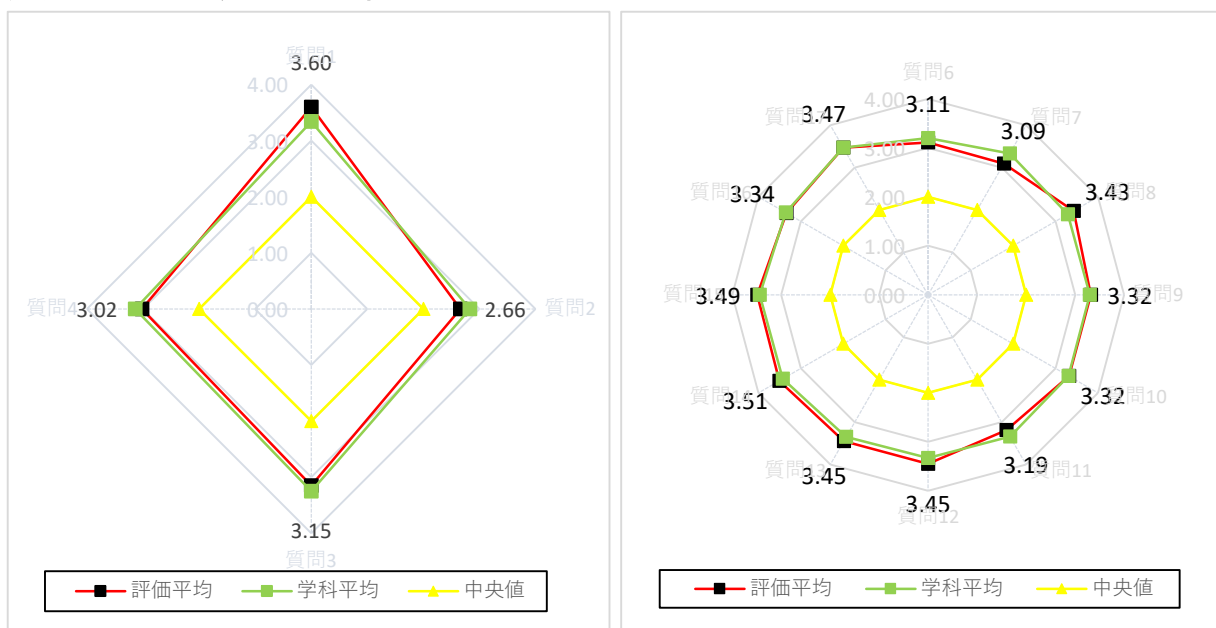
「質問2 シラバス（授業計画）を活用しましたか。」「質問3 授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」「質問6 シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」「質問13 授業の進む速さは適切でしたか。」は、平均より高い得点であった。これは、最初の授業で、授業の内容やスケジュール確認、受講への姿勢など念入りに説明を行い、そのことを受講学生もよく認識して授業に臨んだためと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も今年度同様に、初回の授業においてシラバスを用いて内容について丁寧に説明を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		命の尊厳	48名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

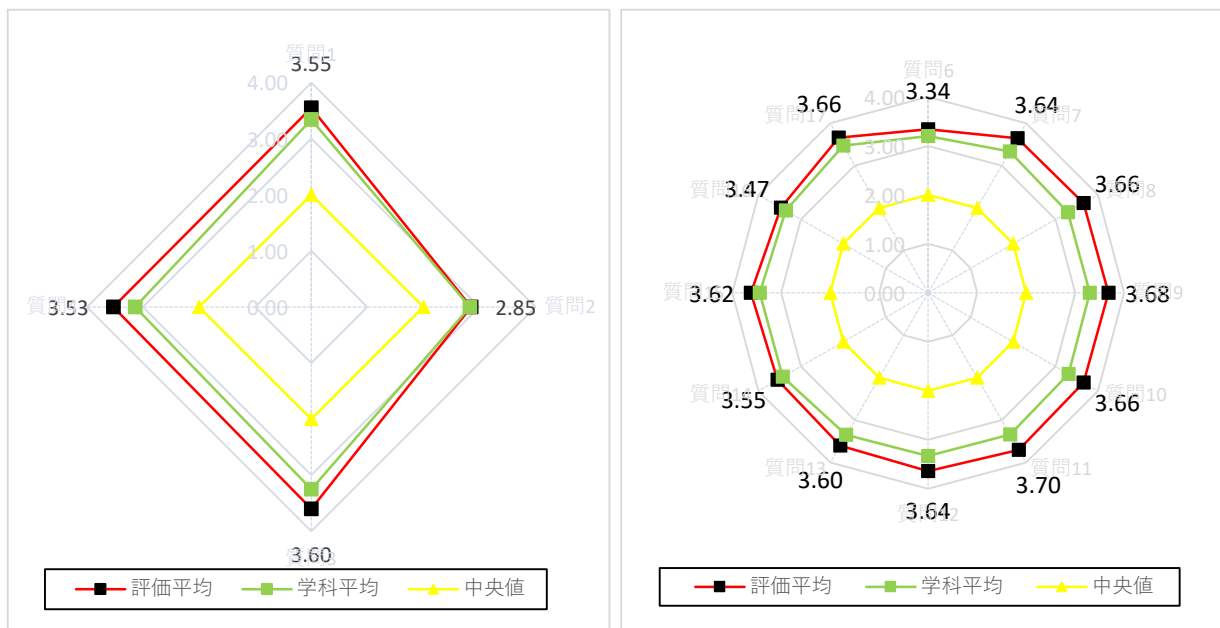
学科平均を下回っているのは、質問7、11である。到達目標の明確化が十分でなく、教科書も使用していないとの評価であった。それ以外はほぼ平均を上回っているようである。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業の到達目標の明確化及び、教科書を使用しない理由等についてさらに明確に伝える努力を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		生涯発達心理学 I (乳幼児期～青年期)	49名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

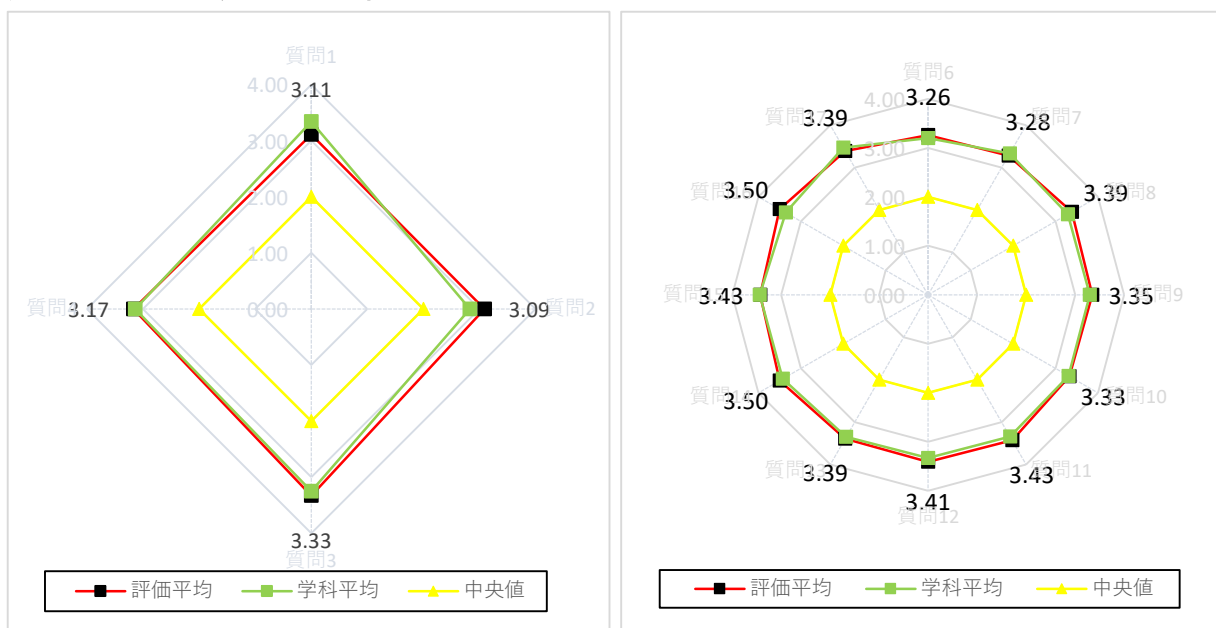
本授業は、出席率も高く、学生も興味を示していることが結果からもうかがえる。毎回授業の目標を提示し、授業を展開しているため、関心が持てたのではないかとと思われる。また、毎回、視覚教材を用いて、その後レクチャーを行うため発達に関する興味・関心が高まったと思われる。また、シラバスに関して、実際にシラバスを用いて授業の中で進めていないため評価が低かったと思われる。今後工夫が必要である。

(3) 次年度に向けての取り組み

本科目は、学生の評価も高く興味・関心が高いため、さらなる教材の工夫と興味・関心をい欲ような授業の工夫を行いたい。そのためには視覚教材の工夫があげられる。またシラバスに関しては、授業の中で説明したりしていないため、次年度はシラバスを用いてきちんと説明をし授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		生涯発達心理学Ⅱ（成人期～高齢期）	53名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

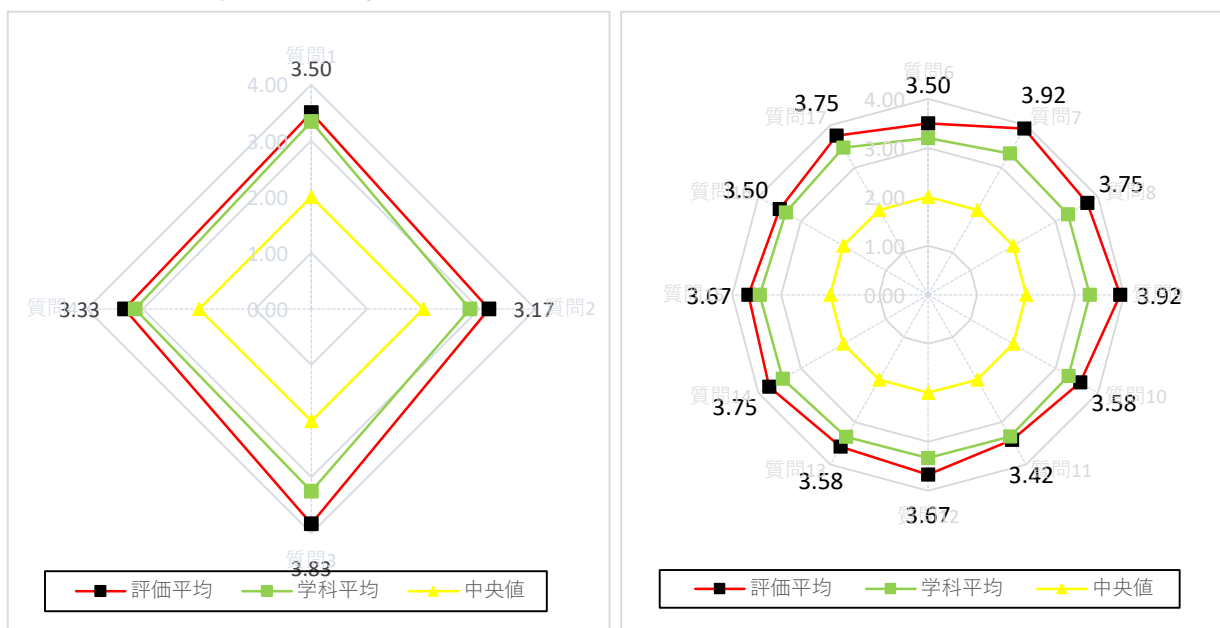
すべての項目が3.3前後であり、ほぼ学科平均と類似した結果をしめしている。可もなく、不可もなくといった授業の在り方だったのかと振り返る。学生にとっては、成人期～高齢期に至るまでの発達心理を学ばないようであったが、十分に興味を喚起できていたかを再吟味する必要がある。

(3) 次年度に向けての取り組み

取り立てて低い項目はなかったのであるが、質問8にある、興味関心を持てる工夫が学生に伝わるような授業に次年度はしていきたい。そのためには、成人期以降のいまだ体験していない年齢層の抱える心理的課題に親和性をもつような教材や資料を準備し、すこしでも自分の身に起こるであろう問題として関心を持てるようにしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		発達障害者教育総論	20名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

「質問6 シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」「質問7 教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。」「質問8 授業は興味・関心が持てる工夫がされていましたか。」「質問9 授業は分かりやすくする工夫がされていましたか。」は、学科平均より高い得点であった。また、「質問3 授業中に居眠り・私語等をせず真剣に取り組みましたか。」も平均よりかなり高い得点である。

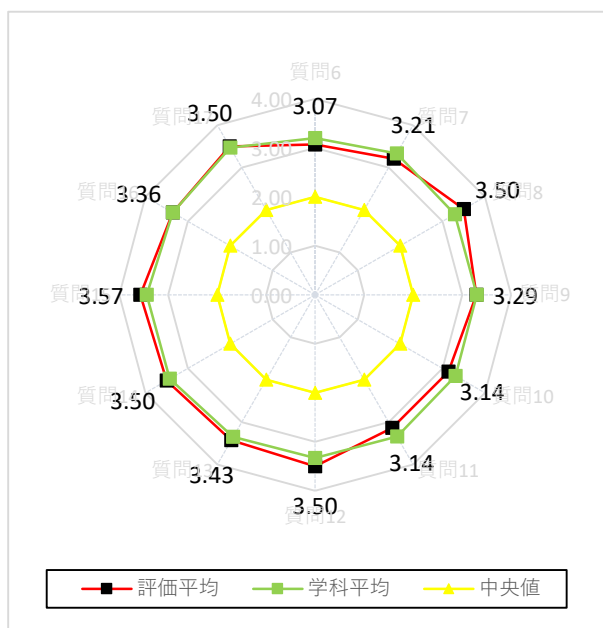
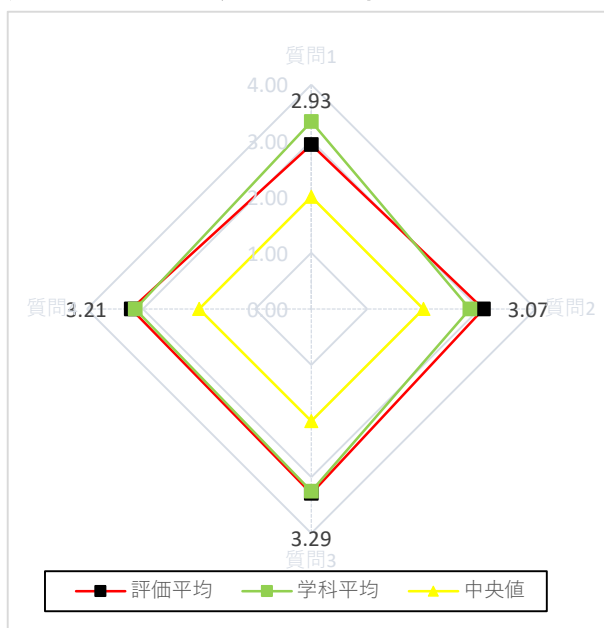
これは、授業の際学生がイメージを持ちやすいように、仮想事例を話題にしたことと、この授業が現場での業務にどのような繋がりを持つのかを折に触れ説明したため、学生の主体性が高まったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度同様、学生のイメージしやすい仮想事例と、授業内容が現場でどのように活用できるかの説明を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		医療心理学	29名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

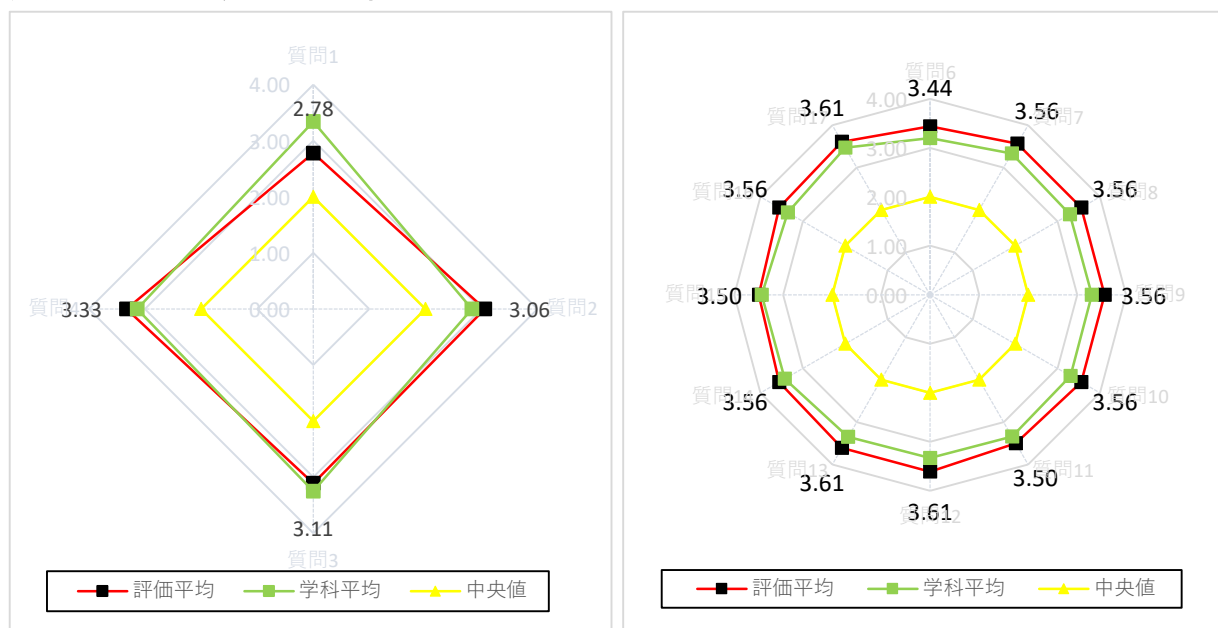
学科平均とほとんど差はないと言える。
 学生の反応に乏しく、理解状況が掴みにくかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は担当がありません。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		社会福祉学	21名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

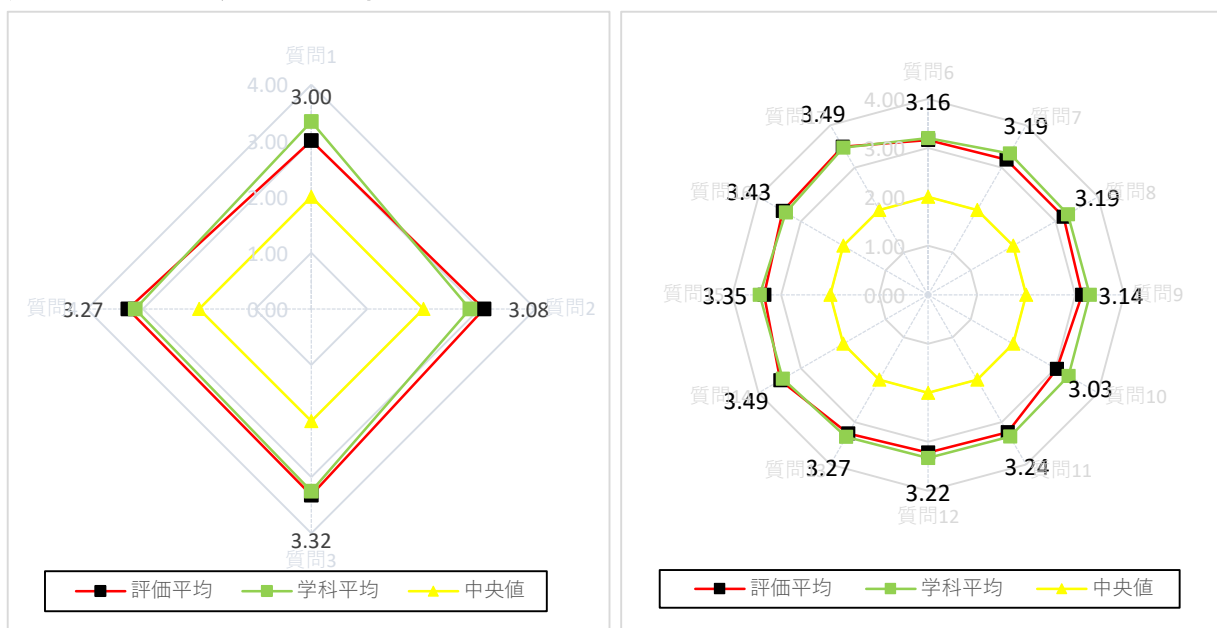
授業アンケートの分析と評価として、全体として平均的な評価を得ることができていた。そのなかでも、特に質問6「シラバス（授業計画）について説明がありましたか。」、質問7「教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。」、質問8「授業は興味・関心が持てる工夫がされていきましたか。」、質問9「授業は分かりやすくする工夫がされていきましたか。」、質問10「視聴覚機器や板書の用い方は適切でしたか。」、質問12「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切でしたか。」、質問13「授業の進む速さは適切でしたか。」においては全体平均と比べ、高い評価を得ていた。一方、質問1「授業は何回欠席しましたか。」においては評価が低く、出席率を上げるための取り組みが必要だと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度に向けての取り組みとしては、欠席しないような継続性のある授業展開と欠席した次の授業でのフォローが必要だと思われる。また、学習教材の選定においても工夫し、学習動機を高めるための教材と振り返り学習に使える教材とに分けて、その特徴を活かしたかたちでの使用を検討していく。なお、中長期的にはテキストの変更も視野に入れ、今後の教科指導のあり方についても計画的に取り組むこととする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		臨床心理学 I	45名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

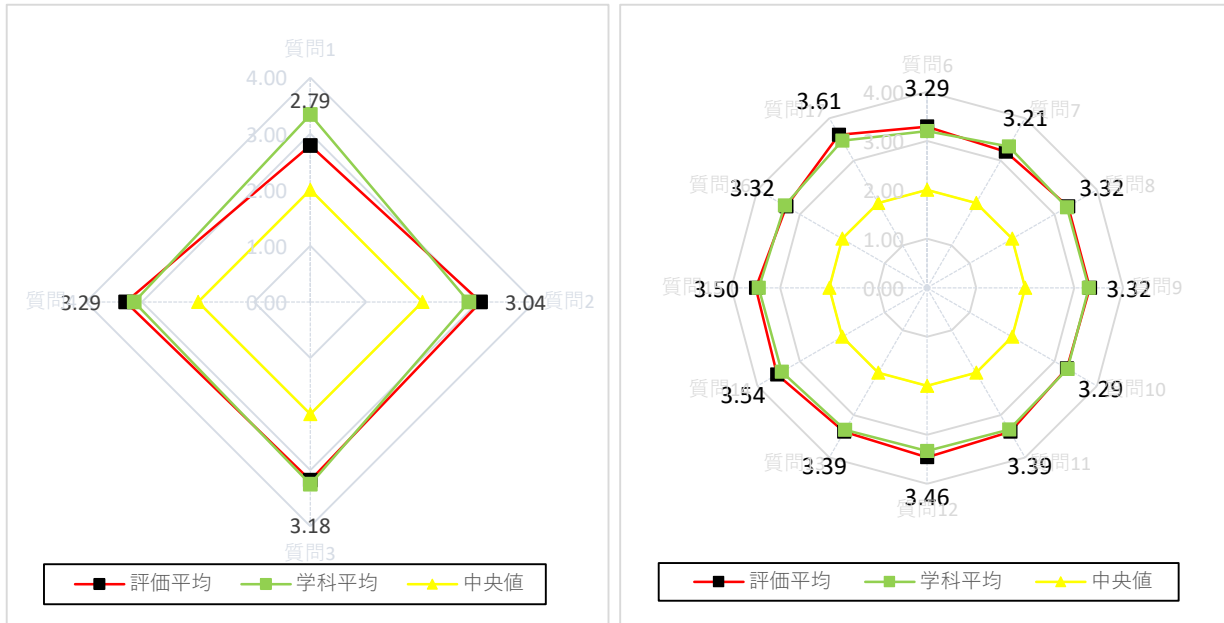
学科平均とほとんど変わらず、平均的な授業だったと思われる。
 視聴覚機器は特に使用せず、教科書中心の授業だったため、質問10の点数が若干低かったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学科平均と比較し、特に低い、あるいは高い科目もなく、来年度も同じ様な感じで進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		臨床心理学Ⅱ	34名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

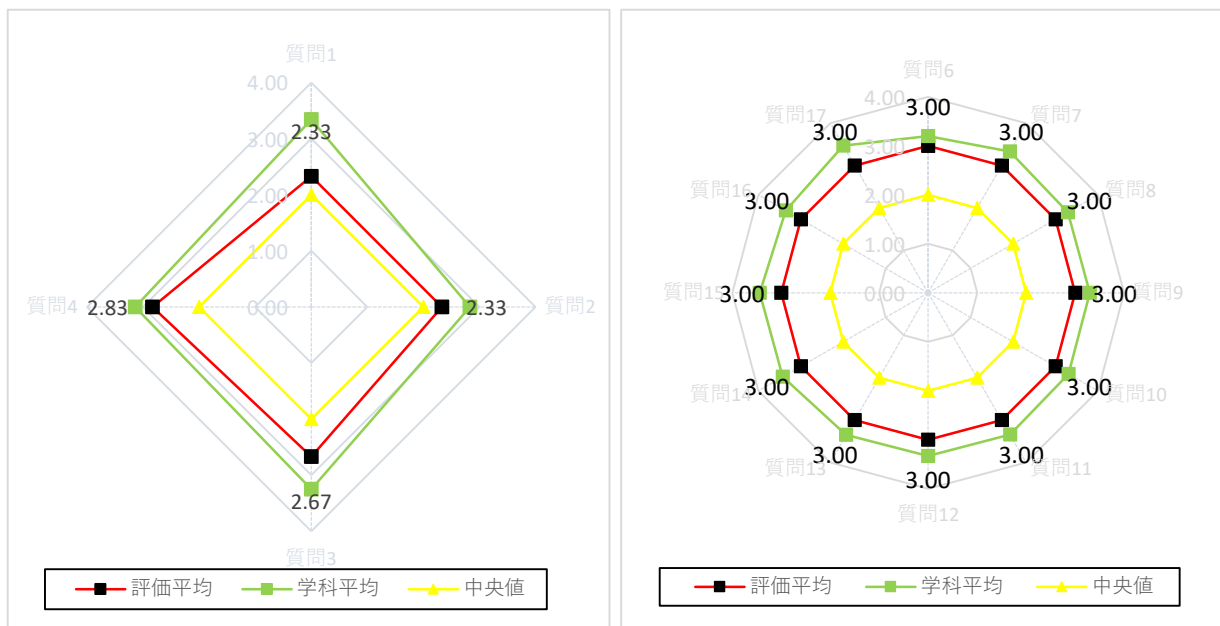
学科平均とほとんど差はないと言える。
 特に高い項目、ないしは低い項目も見受けられない。
 自由記述でも特記なく、これだけからでは学生がどのように受け止めているのかがい知れない。

(3) 次年度に向けての取り組み

大きく問題となる点も見受けられないため、今年度を参考に次年度も進めていきたい。
 公認心理師に関するトピックなどあれば、紹介していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		精神分析学	18名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

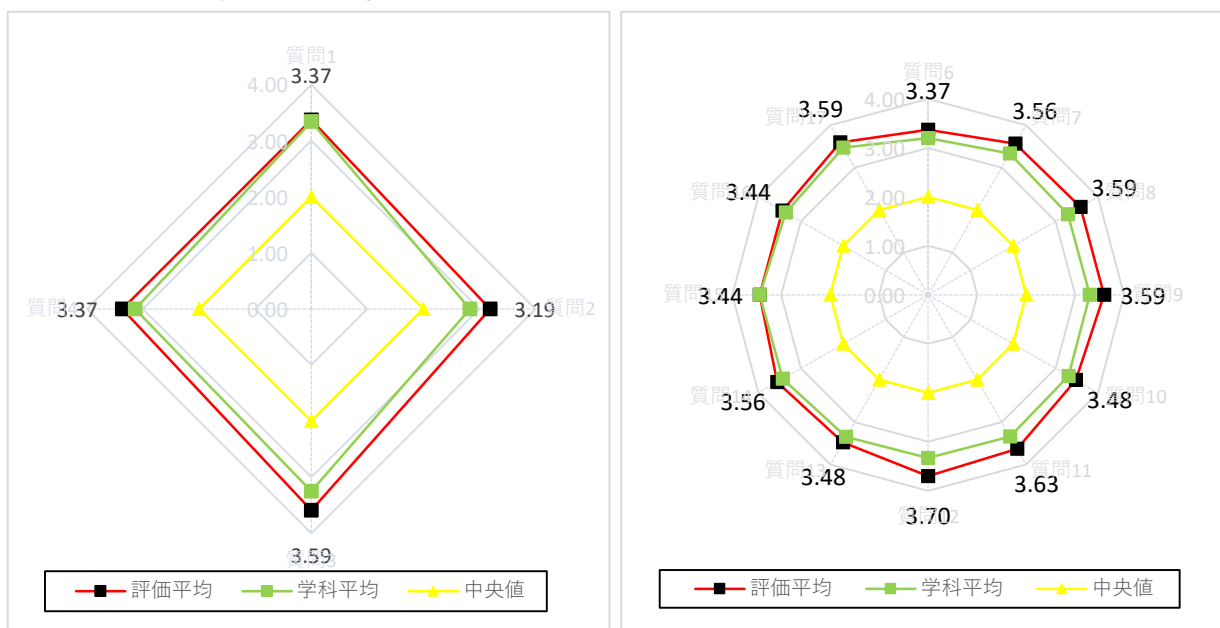
- ・ 18人中6名（33%）の回答率であった。
- ・ 秋から冬にかけての1時限目の授業であり、質問1～4でわかるように、学生自身の受講態度があまり良かったとは言えない面がある。
- ・ 質問6～17までほとんど凸凹のない回答となっており、回答した学生もどう付けてよいかわからず（？）3をチェックしたのではないかと推察される。
- ・ 自由記述でも特記なく、具体的に何をどうして欲しいのか真意がわかりにくい。

(3) 次年度に向けての取り組み

- ・ 内容的には大学院の準備学習にもなるように、やや専門性の高い内容ではあるが、しかし基本的な内容でもある。
- ・ 4年生で単位が必要だと思い受講した学生にとっては内容が難しかったかもしれない。
- ・ 4年生後期の選択授業であり、授業内容に興味を持てる学生と密度の濃いディスカッションができることを期待したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		芸術療法	46名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

全ての質問項目で学科平均を超えていた。出席率も高く学生が科目に対して興味を示していることがうかがえる。

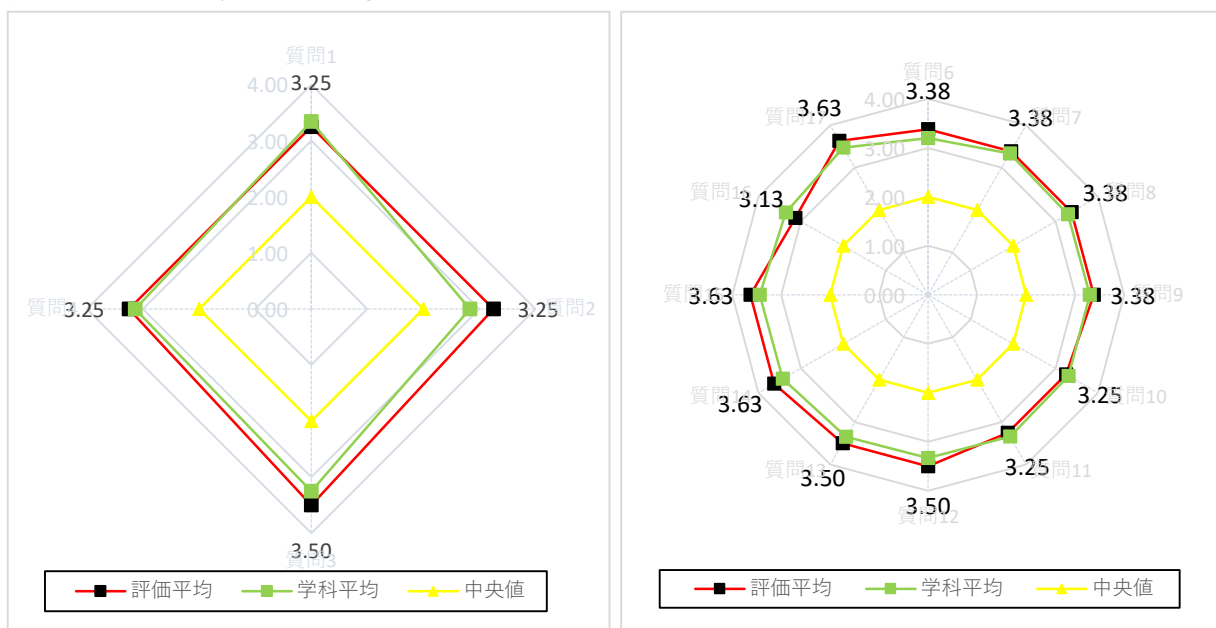
特に毎回授業の到達目標について伝え、授業に関心・興味を示してもらえるよう演習等を取り入れ行った。演習後はグループで話し合い、レポート提出を義務付けた。臨床心理学技法を用いた演習を通して、自己理解・他者理解が出来たのではないかとと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

シラバスについて授業開始時、きちんと行う必要がある。また演習をどのように実施するか、学生が均等に演習を体験でき複数回出来るように（箱庭・コラージュ・描画）時間配分等の工夫をしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		カウンセリング実践演習Ⅲ	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

本科目は、外部実習先で継続した実践を通して心理臨床の力を身につけることを目的としている。そのため、数か所（児童養護施設、適応指導教室、障害児施設）の施設や、大学で行われる臨床心理地域支援に継続して参加している。

学生が自ら施設等に出向き、子ども達と関わりながら支援のあり方を体験できることは、学生にとって心理臨床への興味と関心が高まると思われる。このことは実践後のレポートでも報告している。

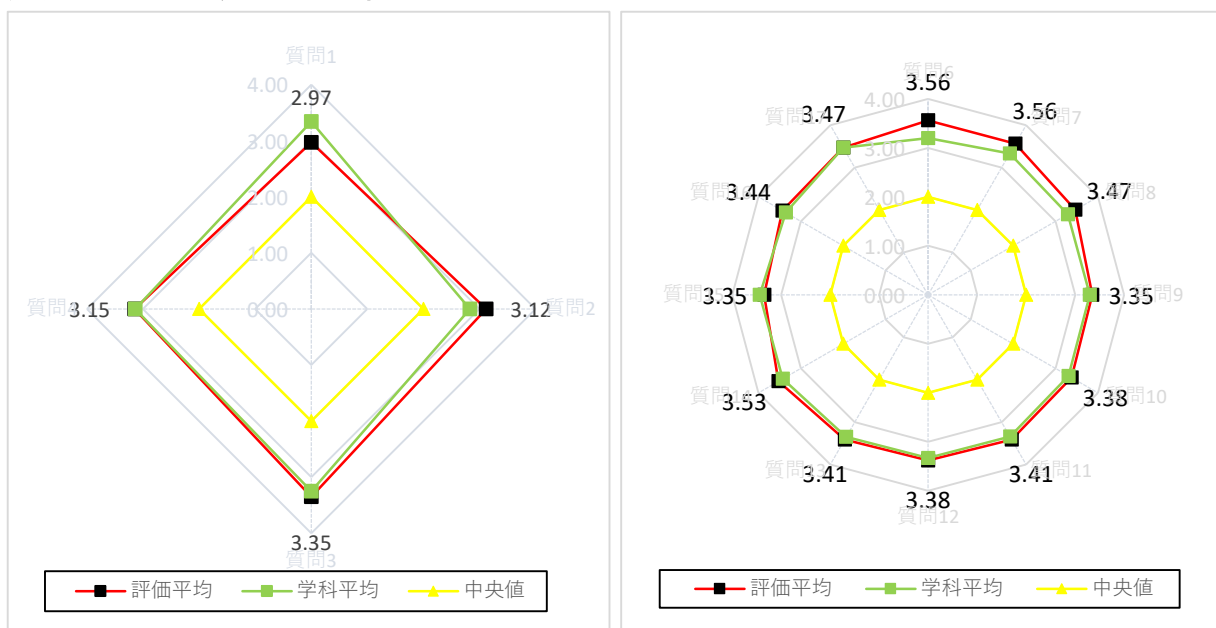
ただ、常に教員が数か所の実習先に出向くことは難しく、学生との双方向的なやり取りは難しいと思われた。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は実習先の見直しを行い、実践できる場を多く確保できればと思う。また、実践後のシェアリングに力を入れ時間を確保できればと思う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		カウンセリング実践演習 I	37名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

この授業は、通年でカウンセリングの基礎的スキルを学ぶことと、心理職が働いている職場を見学したり、自ら幼稚園において子どもと触れ合う体験型の演習である。すべての項目で、学科平均をやや上回っていた。特に得点が高かったのは、質問6「シラバスについて説明がありましたか」が、学科平均3.0に対し、本講は3.56であった。前後期共に、シラバスを配布し、また、何を到達目標としているかの説明を丁寧におこなった成果と考える。したがって、質問7についても学科平均3.28に対し、3.56をしめしている。

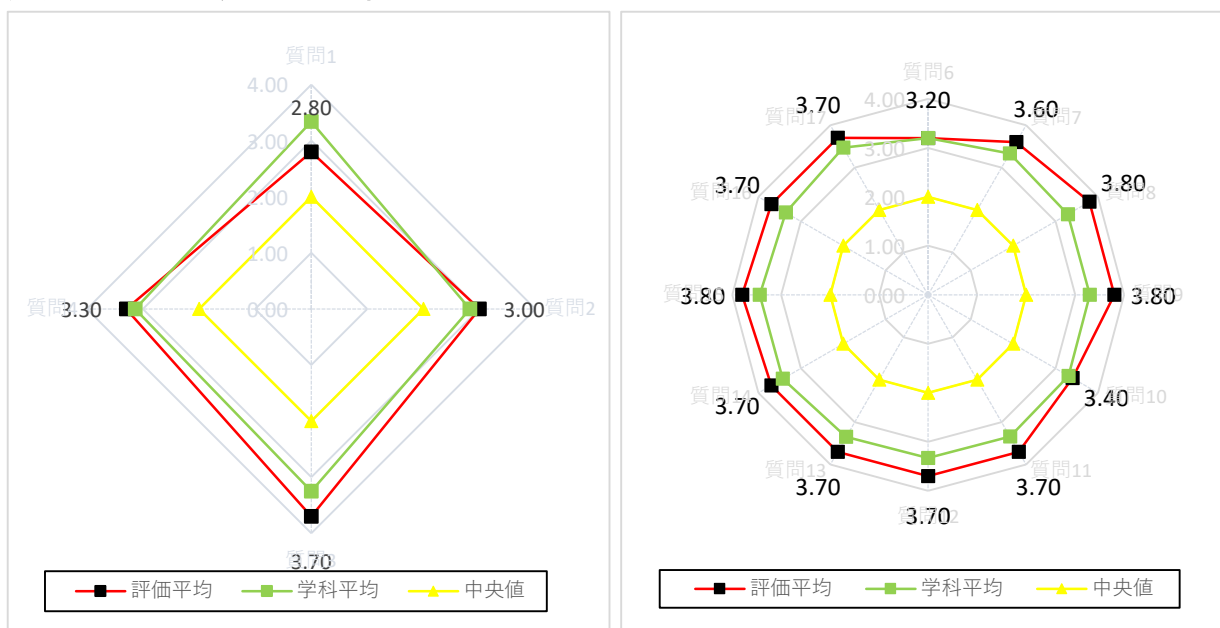
質問8の授業への興味関心を持てる工夫についても3.47と比較的高い点を示している。様々な実習形式を提起したことが学生の評価に繋がったのではないかと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

様々なグループワークも取り入れているが、教員との双方向的なやり取りも重視される授業であるので、この点について授業のやり方を工夫していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		カウンセリング実践演習Ⅱ	31名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

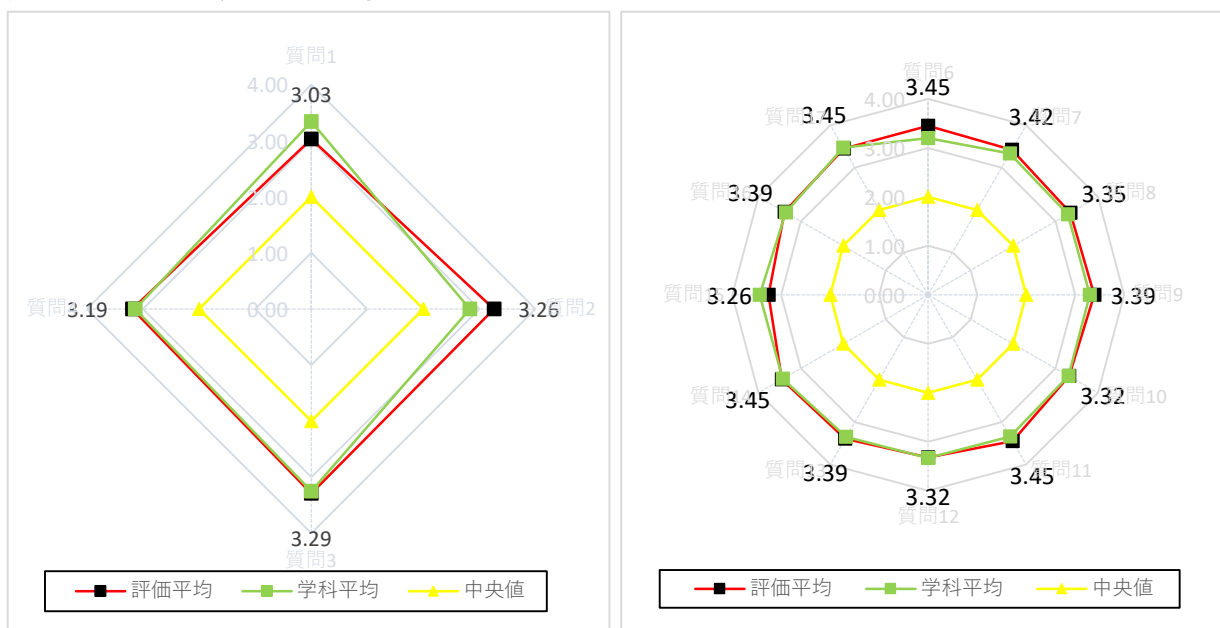
質問7～9、11～17までは、学科平均得点を上回っている。また、質問3も高い得点である。これは、臨床心理学の実技や心理士としての構えを内省する内容を演習形式で行っていったため、学生の学びへの主体性が高まったと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度も継続して、学生の主体的学びを高めるよう、内容を工夫していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		思春期・青年期心理臨床	35名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

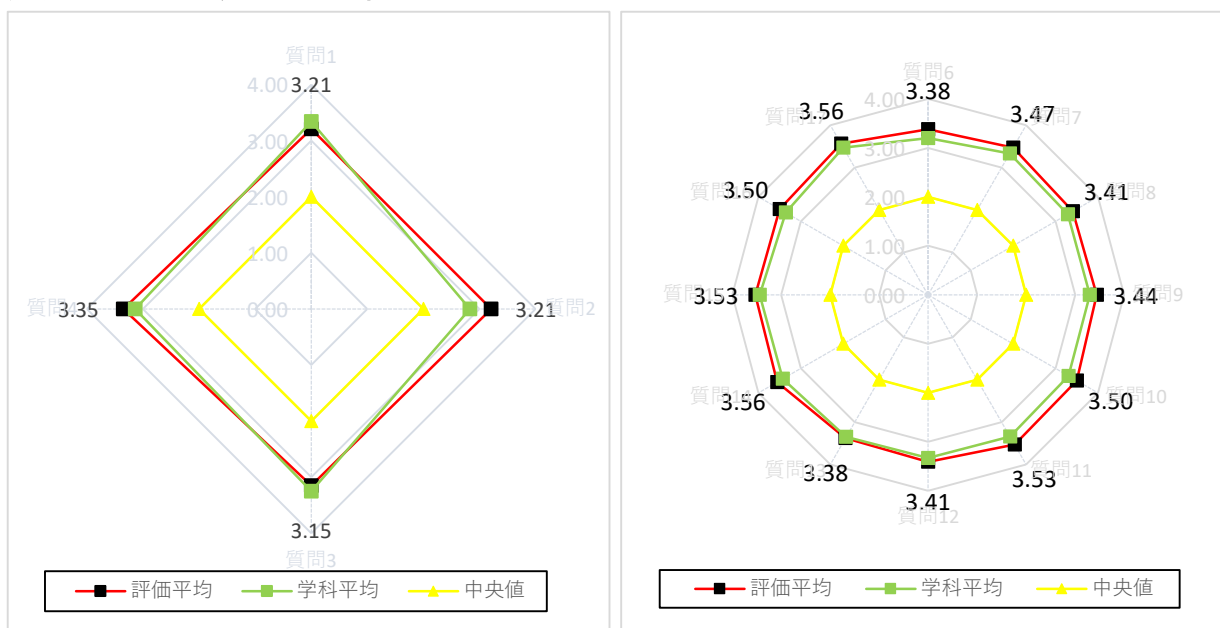
本科目は、学科平均より高く評価されており、学生の授業に対する興味・関心が高いことがうかがえる。特に、年齢的にも思春期・青年期のことは、自分のこととして捉え授業を受けていると思われる。青年期の課題についてグループワークをしても、自分のこととして考え発言しており、興味深いものであった。单元ごとにレポート提出も義務付けたがまじめに提出する学生との差が見られた。もう少しレポート提出の方法について工夫が必要であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生が興味・関心を示しているので、自己の振り返りが出来るような授業の工夫を行っていききたい。そのためには箱庭・コラージュなどの表現療法技法を用いて自分について考える時間をとる必要性を感じる。また、思春期・青年期の発達課題について、調べ学習を通して深く理解できるように指導を行いたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		障害児臨床心理学	43名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

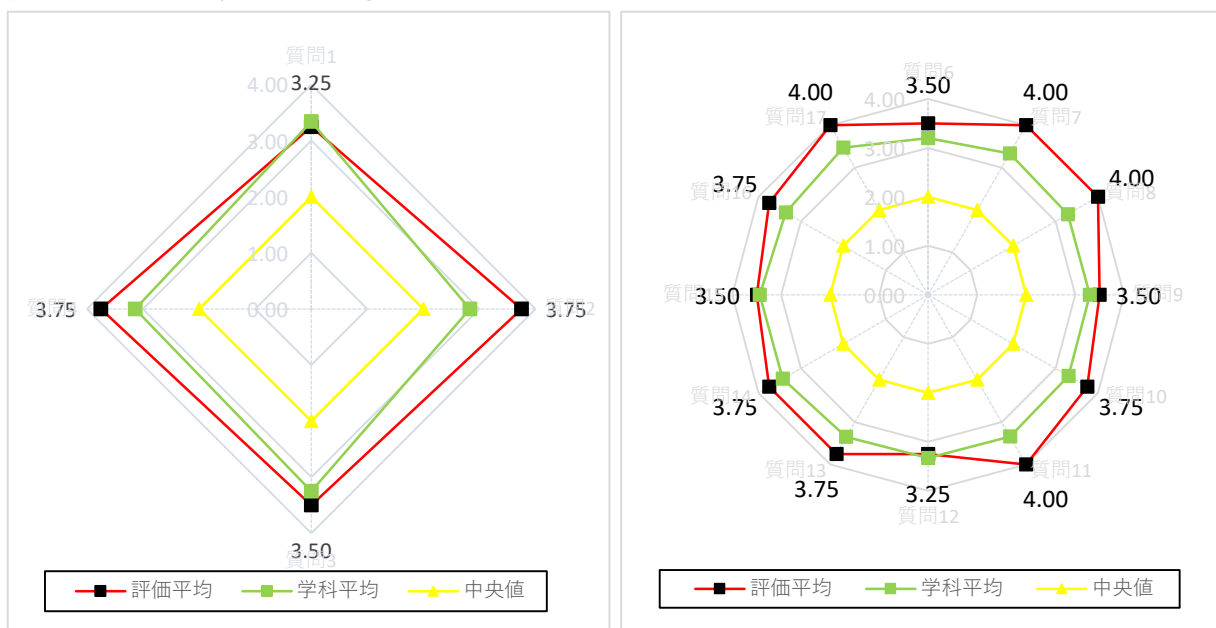
全体的に得点は学科平均同等かやや高い。3名の教員で行うオムニバスであったが、教員間で情報を交換し、一貫した目的で授業を行っていたためと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

次年度は1名の教員で授業を行うため、より学生に授業の意義・内容の周知を図っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		卒業研究	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

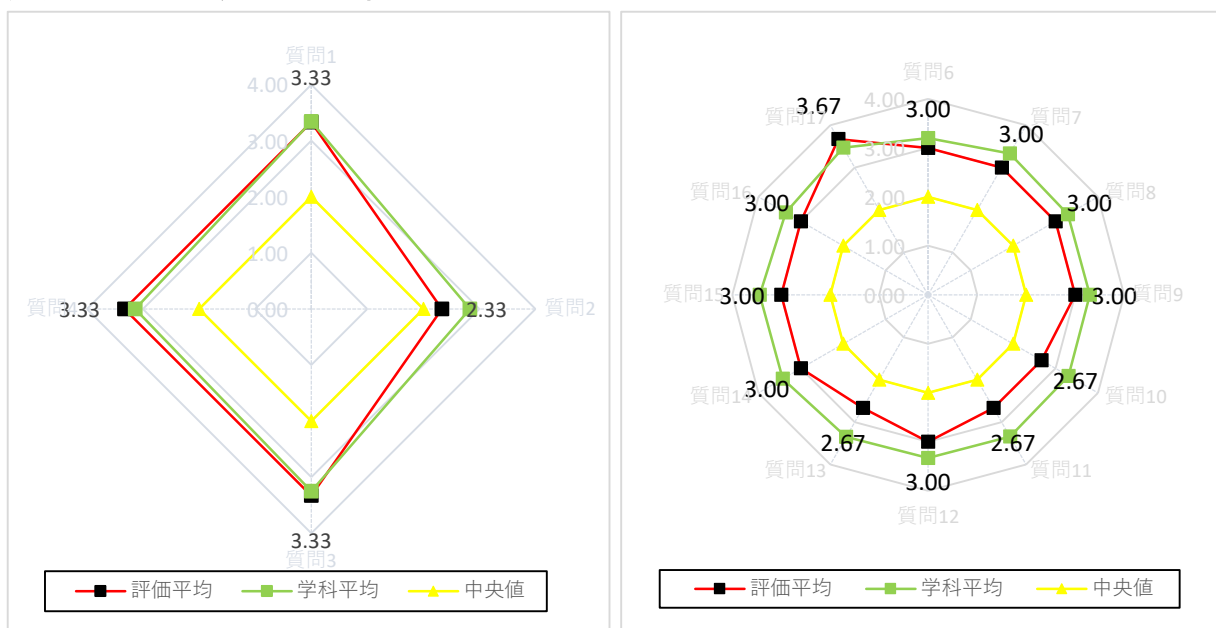
卒業研究に関しては、当初から熱心に取り組み到達目標を自分で決めさせ卒業論文制作を行った。ゼミ生が協力して、学修しており、グループで学修する時間を多く設けた。また、図書館利用を勧め文献検索等にも時間を費やした。その結果、全員（一人は留年）がアンケート調査を行い統計処理を用いた論文を仕上げている。

(3) 次年度に向けての取り組み

3年ゼミから継続した指導が必要であり、大学生時代の集大成である卒業論文に早く着手できるようにしたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		卒業研究	4名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

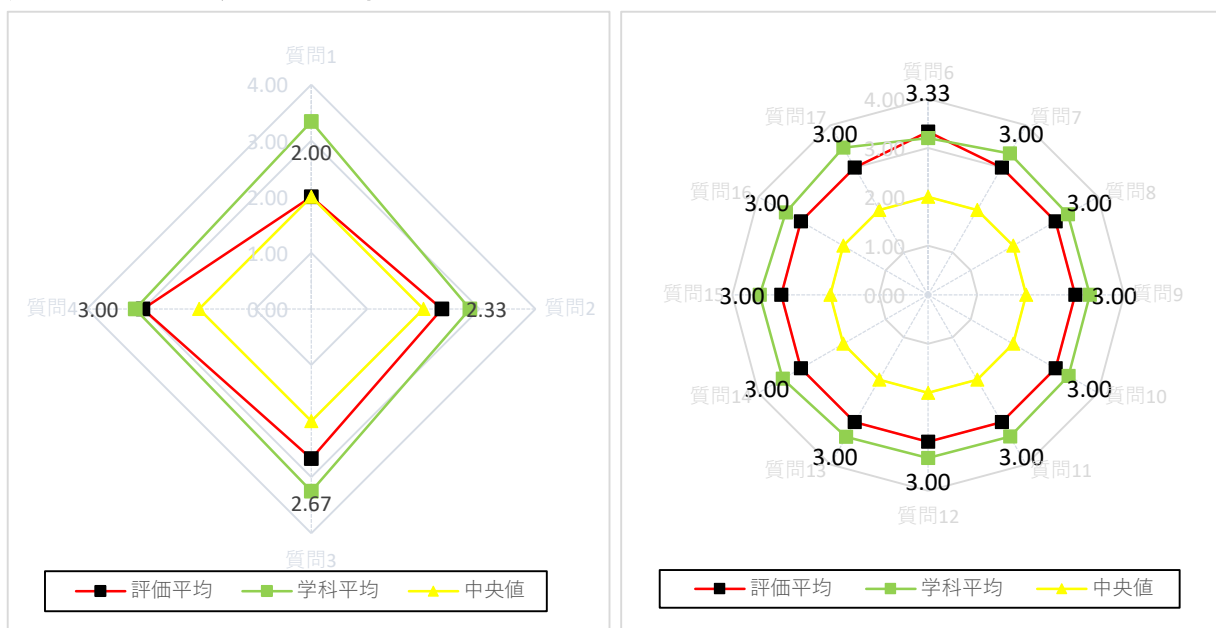
本授業は、卒業論文執筆のための授業でした。時間と場所は確保していましたが、学生の都合（実習や就職活動）やそれぞれの進捗状況に応じて、個別で指導することが多かったです。その点から、これらの質問項目は本授業にとって適したものにはなっていないと考えております。個別での指導が中心でしたので、「質問14：学生の質問等に誠実に対応しましたか。」「質問15：公平に学生に対応しましたか。」「質問16：教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか。」は高くなければならないところですが、低い評価が出ております。学生たちとの信頼関係が十分築けていなかったという反省があります。

(3) 次年度に向けての取り組み

今回はそれぞれの学生の状況を鑑みて、私の計画に基づいて指導をしていましたが、学生たちの意思・希望を確認しつつ指導できればよかったと思います。今後は、学生たちの意見を取り入れながら、いっしょに授業をつくっていくことを強く意識して指導にあたります。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		卒業研究	6名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

すべて学科平均より低い点数であったが、質問6から17はすべて3.0という点数で、きわめて低いという結果ではないと考える。

この中で、際立つのが、質問1の何回欠席したかという質問で、回答者が6名であるので、6名中数名の偏りが大きく反映されたのではなかろうか。

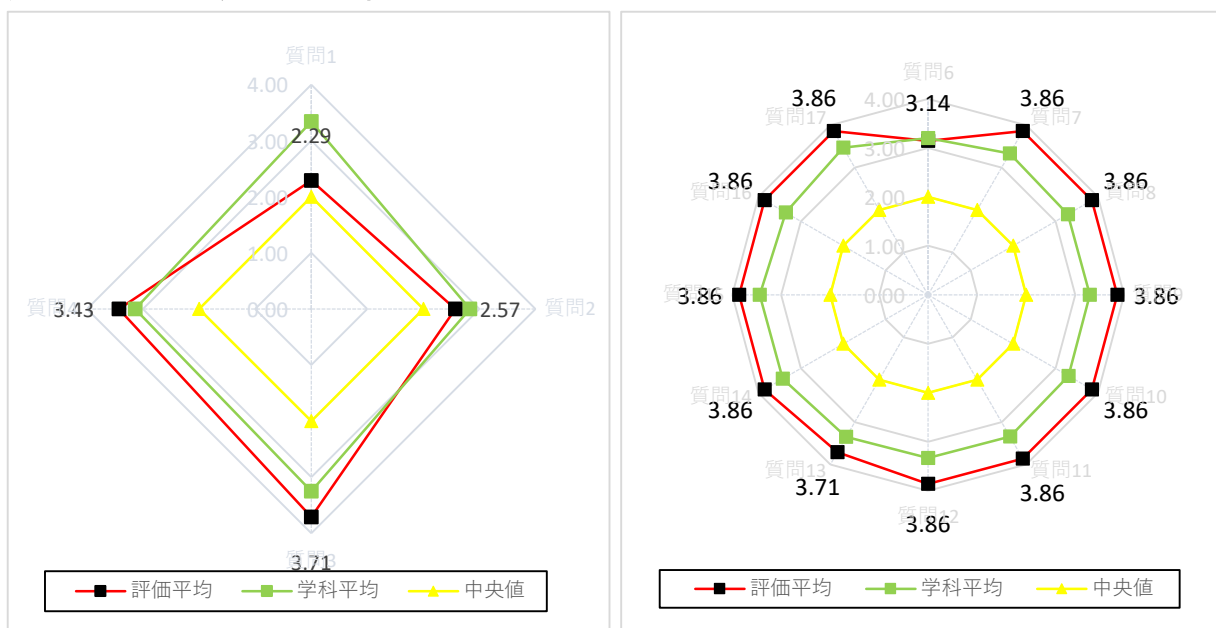
質問16の双方向的なやり取りに関しては、卒論指導はまさに双方向的なやり取りのほうであるが、この認識が学生には十分に伝わっていないと考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

今後は、卒論指導においてより双方向性に留意し、教員の熱意が空回りしないように十分に配慮していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		卒業研究	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

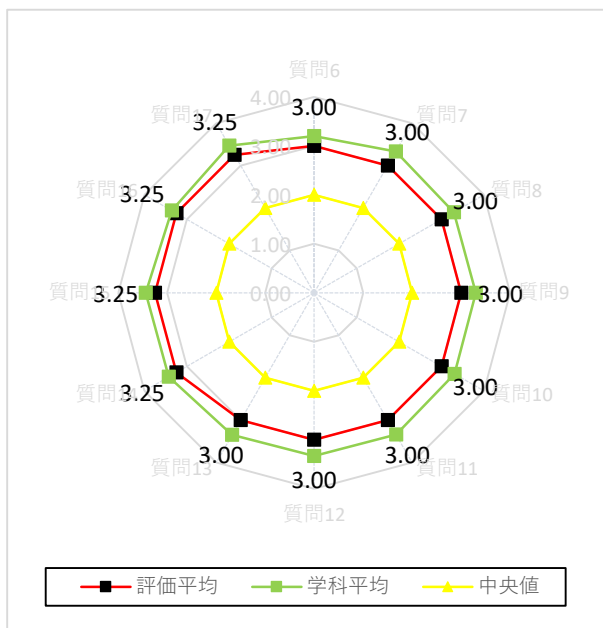
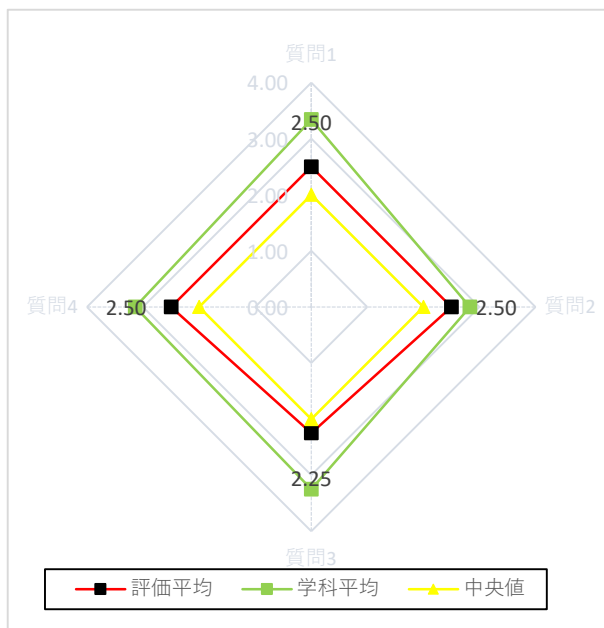
質問7～17までは、平均より高い値であった。一方、質問1は平均よりかなり低い値であった。これは学生の中で一般就職を目指す学生が占める割合が高く、実際面接等で欠席することが多かったためと考えられる。そういった学生には、別日に個別指導を行ったため、卒業研究制作には特に影響はなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

就職活動を行う学生への学習保障を丁寧に行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		卒業研究	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

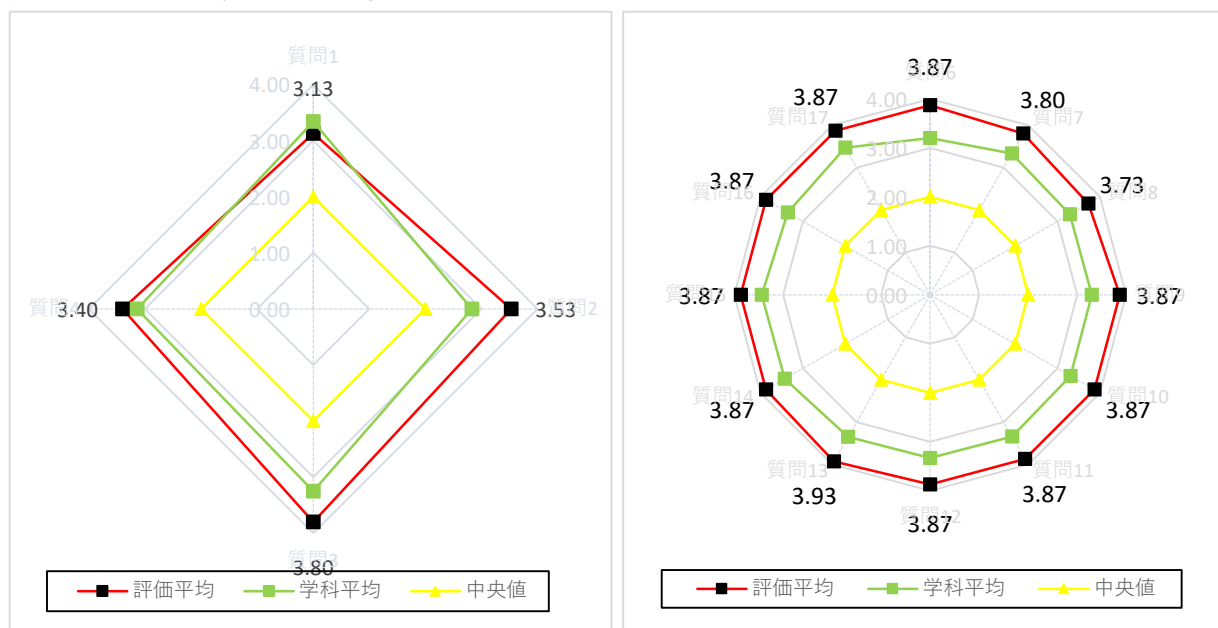
質問1～4に見られるように、学生自身のコミットが弱いように思われる。科目は「卒業研究」なので、もっとも学生自身の自発性が問われる科目だが、まずそこが弱いと感じられる。こちらが何かを押しつけるわけではないので、学生自身が能動的に取り組んでももらえればまだ対処の仕方もあるが、なかなか難しい。

(3) 次年度に向けての取り組み

卒業研究はあくまで学生の主体性、能動性に基づいて進めていただきたいと思うので、次年度も学生の問題意識を大切にしたいと思うと同時に、学生自身積極的に取り組んでいただきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		ゼミナール I	18名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

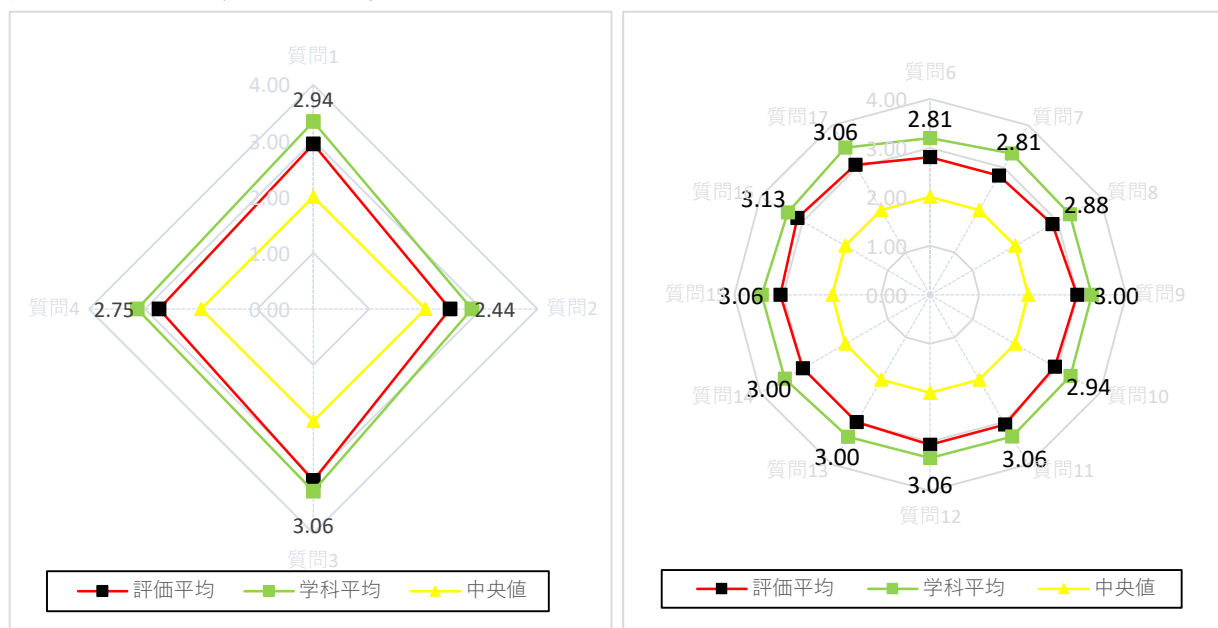
この演習は2年の必修で通年の授業である。1年間を通して、最終的には自分自身の関心のあるテーマについてまとめて発表をする形式をとっている。すべての項目で、学科平均を大きく上回る点数を示している。特に低い点数はなく、教員の熱心さや双方国政、誠実な対応について評価している点は今後の教員のモチベーションにもつながる。また、欠席回数についても3.19であり、欠席者も少ないゼミであったことがわかる。ゼミ生たちのまじめな学びぶりが反映されていると考える。

(3) 次年度に向けての取り組み

毎年、ゼミの内容は大きくは変わらないが、ゼミ生たちの構成員によってゼミの凝集性やパフォーマンスも影響が出る。今後は一人一人の特性を尊重しつつ、ゼミとしてまとまりのある指向性をもてるように学生一人一人ひとりへの働きかけに留意していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		ゼミナール I	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

ゼミナール I は授業計画に則って、横一線でクラスごとにあまり差異なく指導していくものですが、低い評価が出ております。

学生たちのモチベーションを高められなかったということが反省点として挙げられます。

毎回の授業での動機づけをして、何のための授業かということを学生たちに理解してもらえるよう努めていく必要があるかと思っております。

まずは、こちらが一人ひとりの学生を理解する必要があると考えています。

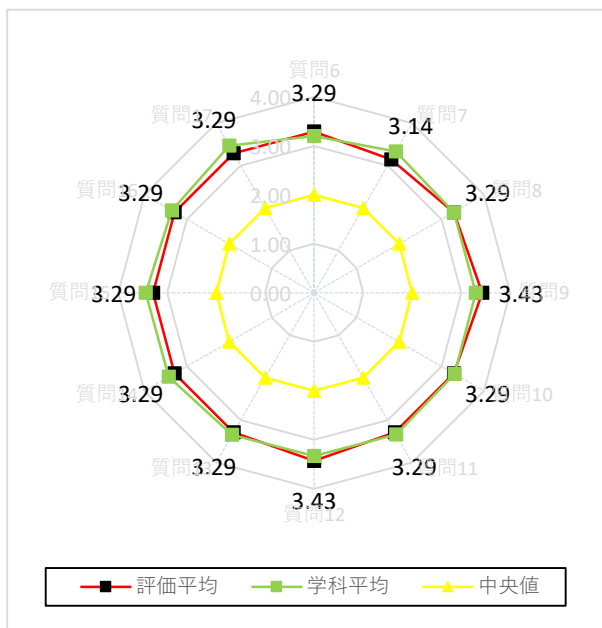
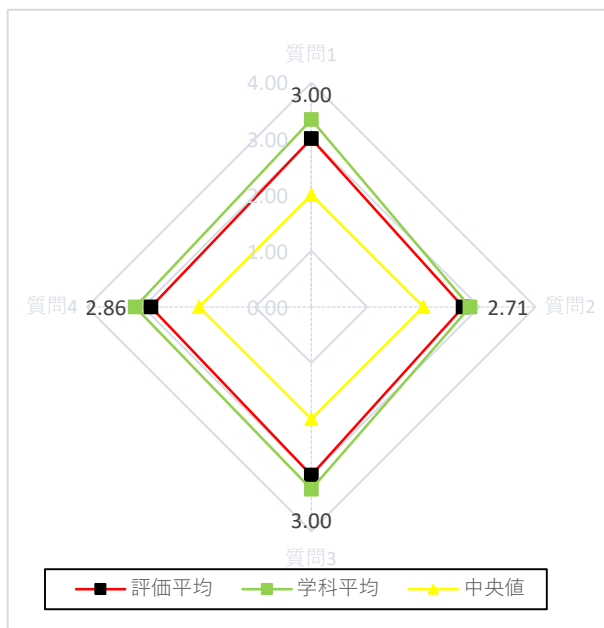
(3) 次年度に向けての取り組み

学生たちのモチベーションを高められるような授業展開をすることが大切だと思います。毎回の授業での動機づけをして、何のための授業かということを学生たちに理解してもらえるよう努めていく必要があるかと思っております。

授業外での学生との関わりについても強化していく必要があります。ゼミナール I の受講生とは、授業以外にも指導教員としての関係があります。教員側が一人ひとりの学生を理解する必要がありますので、学生と話す回数を増やしたり、つねに気に掛ける姿勢を持ったりすることをこれまで以上に意識しなければならないと考えています。学生たちとの信頼関係が強くなれば、授業への動機付けもできるようになると考えられます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		ゼミナール I	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

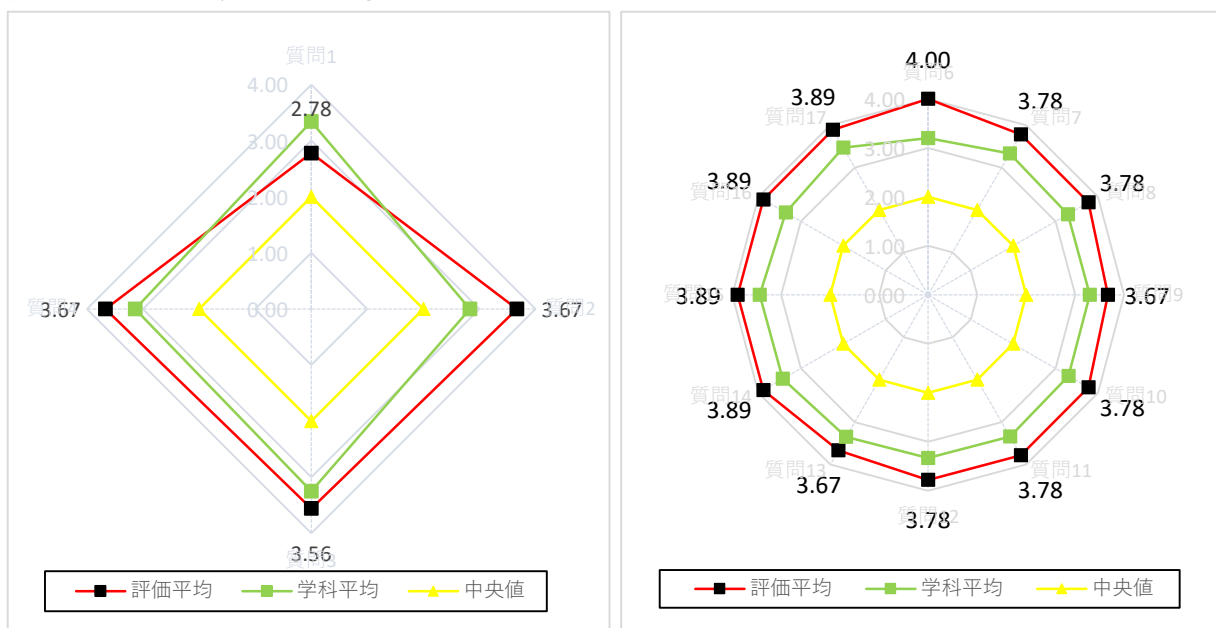
「質問7 教員は授業の到達目標を明確にして、授業を展開していましたか。」が学科平均よりやや低い。また質問1～4までの得点はすべて学科平均より下回っている。これは、学生の学習力と学習内容の間に齟齬があり、個々に応じた指導が不足していた可能性が考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

学生個々人の学習力を把握し、個々に応じた指導を行っていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		ゼミナール I	9名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

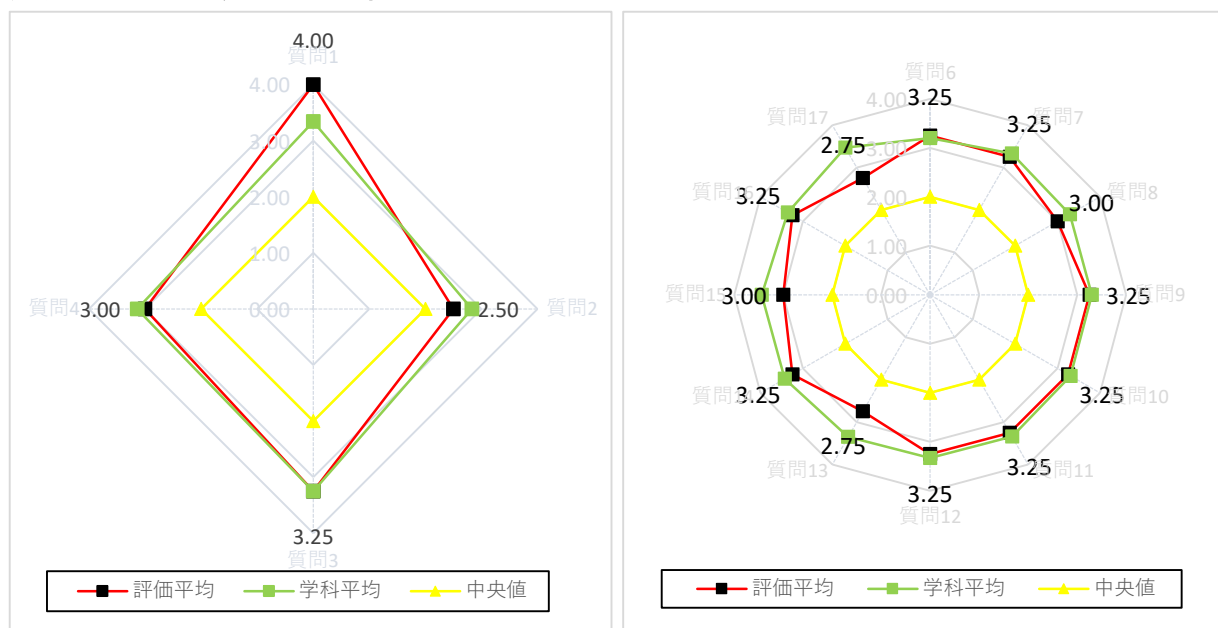
おおむね高い評価であった。

(3) 次年度に向けての取り組み

最後のレポート作成につなげるように、テーマを最初から考えさせておく必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		ゼミナールⅡ	7名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

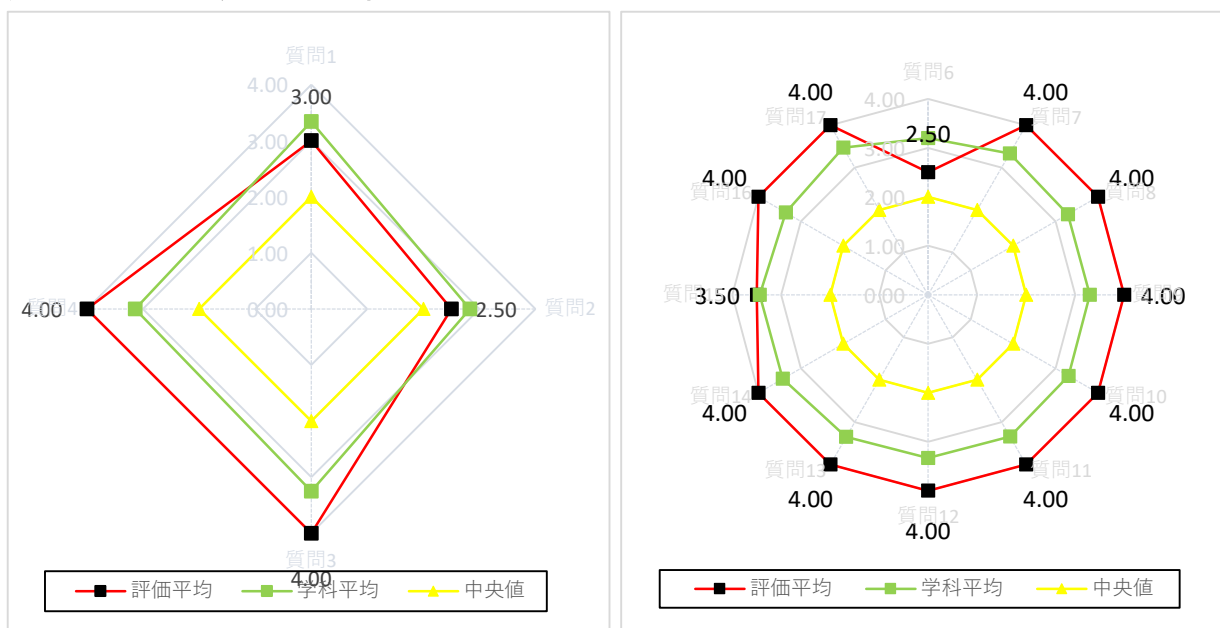
全体的に低い評価が出ており、反省すべき点が多いです。とくに、「質問8：授業は興味・関心が持てる工夫がされていたか。」「質問13：授業の進む速さは適切でしたか。」「質問15：公平に学生に対応しましたか。」「質問17：教員は熱心に授業に取り組んでいましたか。」の評価が低かったです。出張等が多く、授業変更が多く出てしまい、学生たちにはたくさん迷惑をかけてしまったことが反省点として挙げられます。ゼミの特性上、教員は最低限の指針を示すだけにとどめ、学生たちの主体性に任せようと思っていたのですが、うまく運用できなかつたと思います。もう少し学生に対する理解を深め、それぞれの能力に応じた指導ができればよかったです。

(3) 次年度に向けての取り組み

何をするかというところを教員主体で決めていましたが、これからは学生たちの意見を踏まえていっしょに授業をつくっていく姿勢を持ちたいです。また、学生の能力に応じて課題を出し、そしてその課題にどんな意味があるのかということを理解してもらえるように努めることを心がけていきます。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		ゼミナールⅡ	16名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

ゼミナールⅡは、卒業研究に向けた準備を行っている。文献を調べ、その後テーマを決め、デザインを考えていく作業である。年に2回（前期、後期）パワーポイントを使い卒業研究の進捗状況を発表するようにした。

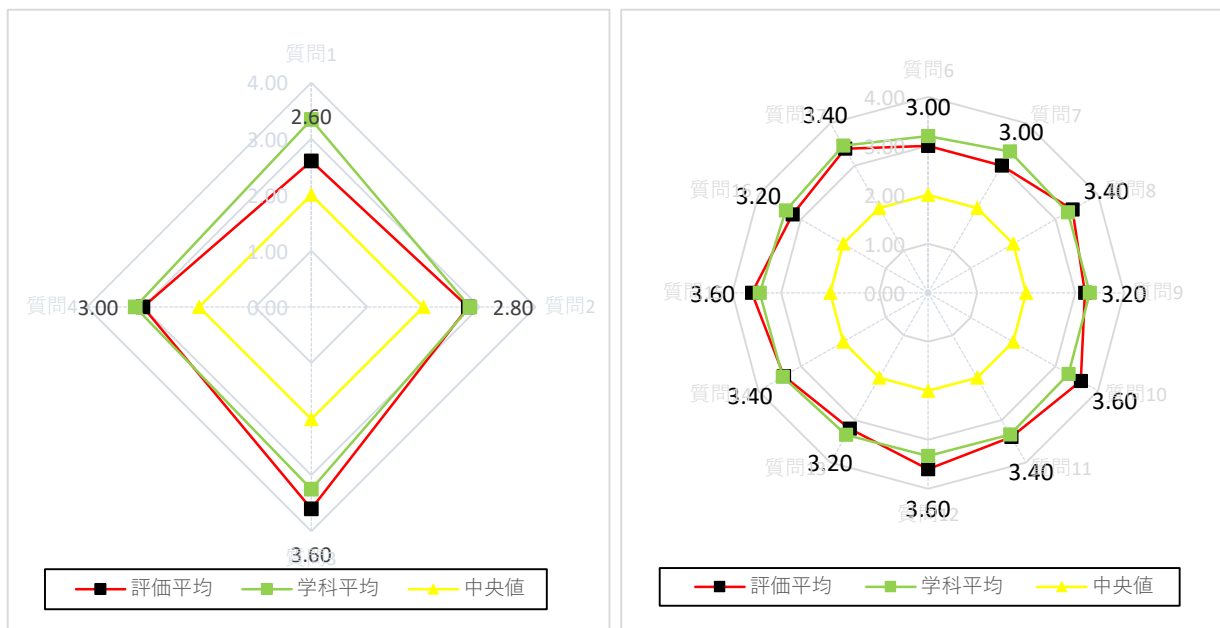
ほとんどの学生がデザインまで考え、中には調査研究できる状態まで進んだ学生もいた。ただ、シラバスの説明やシラバスに沿った指導が出来なかったと思われる。

(3) 次年度に向けての取り組み

卒業研究に向けた準備として1年間取り組みたい。シラバスを学生に周知させながら進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		ゼミナールⅡ	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

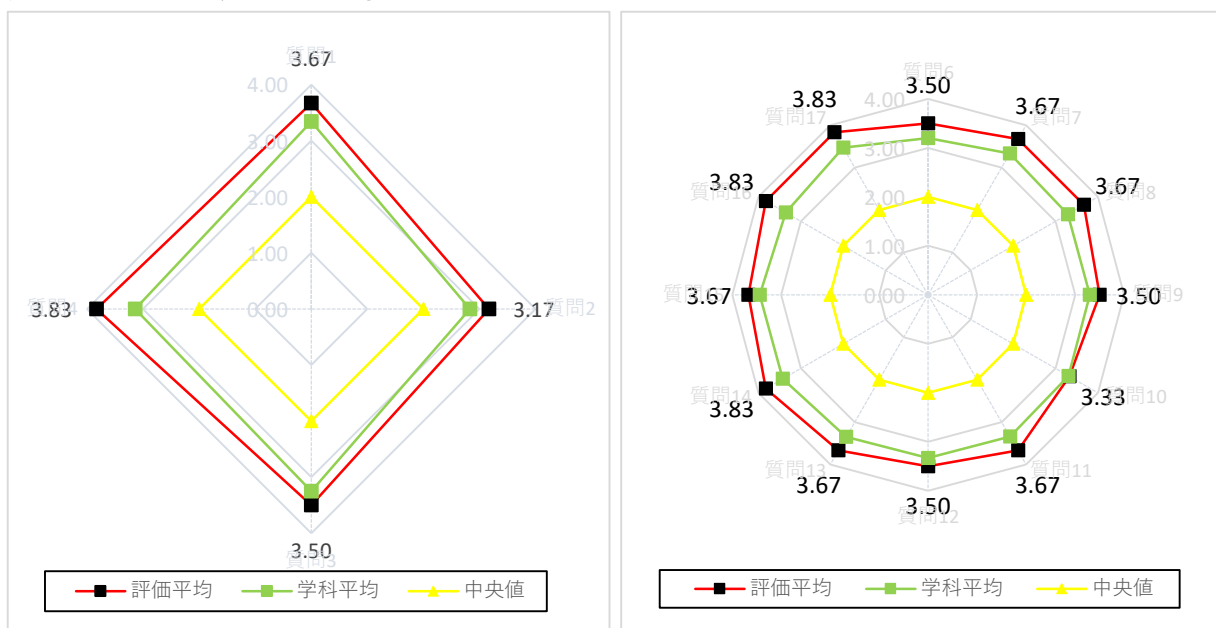
平均とあまり数値が変わらず、どのように受け取るか判断が難しい。
 自由記述でも記載なく、それなりに学生は受け止めているのではないか。
 卒業研究の準備段階として話題を提供していったが、さほど役に立ったとも、また無駄だったとも言えない感じが。

(3) 次年度に向けての取り組み

卒論準備のゼミと言うことでできるだけ学生の意見を聞きながら進めたつもりだが、質問16の結果を見ると、やはり学生自身の発信力、表現力に弱いものを感じる。
 就職対策講座なども入り、限られたゼミの時間であるが、できる範囲で学生の興味・関心を引き出せて行ければと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		ゼミナールⅡ	10名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

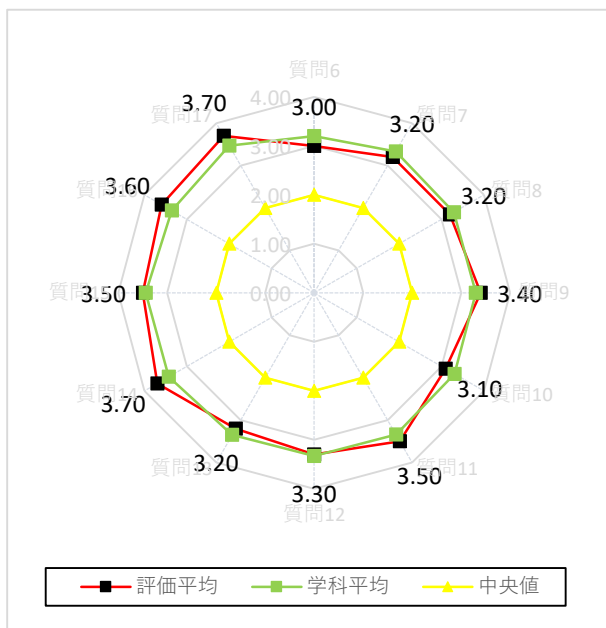
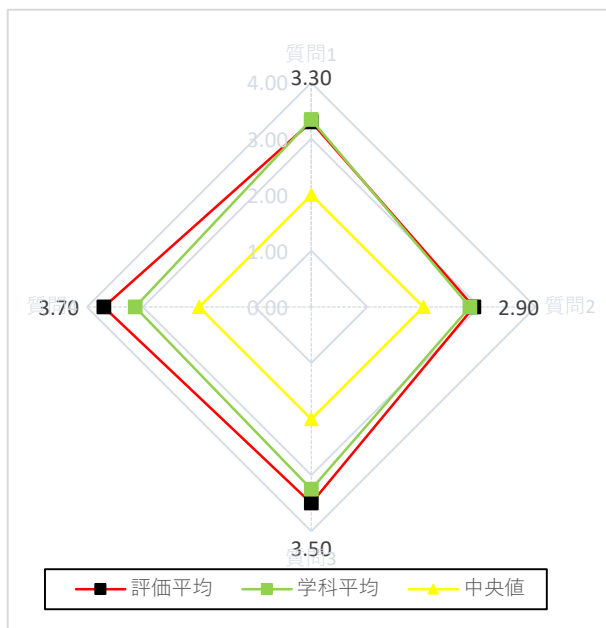
どの項目も平均同様、それ以上の高い得点であった。これは、アカデミックスキルの集大成として、前期に専門文献のリーディング、ライティング、プレゼンテーションを全員に3度行わせ、後期には卒業研究に向けた文献収集、レジュメ作成といった体系的学習を行ったためと考えられる。

(3) 次年度に向けての取り組み

今年度同様、体系的にアカデミックスキルを修得できるよう、指導を行う。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		肢体不自由者教育	17名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

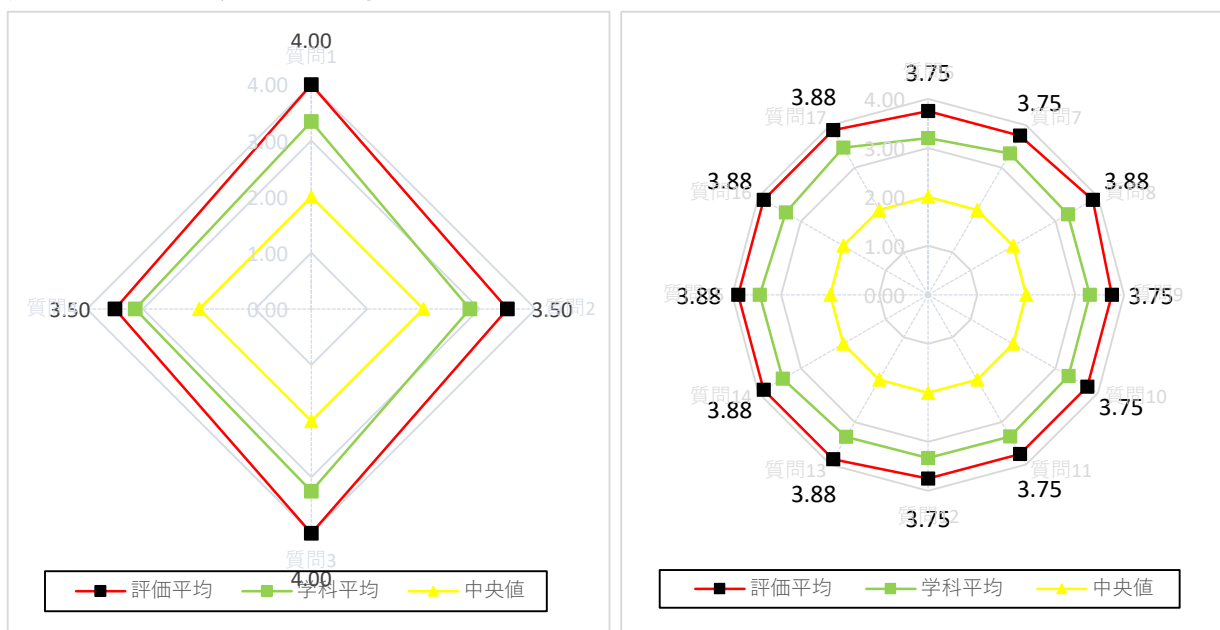
肢体不自由の子供と関わった経験が少なく、理解が進まなかった。実際の授業場面等を見学させ、理解させることが大切である。
なかなか理解が進まなかったため、シラバス通りに進まなかった。

(3) 次年度に向けての取り組み

もっと事前学習をするように、工夫した授業を展開していく必要がある。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		特別支援教育実習事前事後指導	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

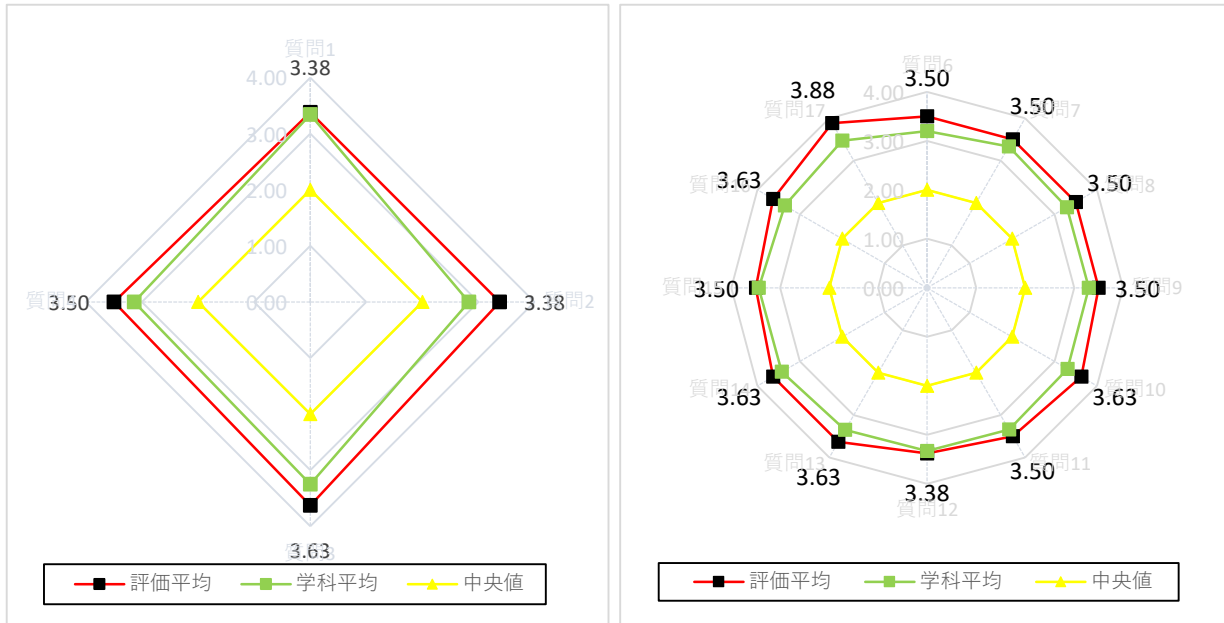
おおむね高い評価であった。教育実習に行く前は学生も必死に授業に耳を傾けたり、指導案を作成したるするなど、熱心な取り組みであった。

(3) 次年度に向けての取り組み

回数が少ない。そのため、個別に対応している。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		肢体不自由者教育の理論と実際	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

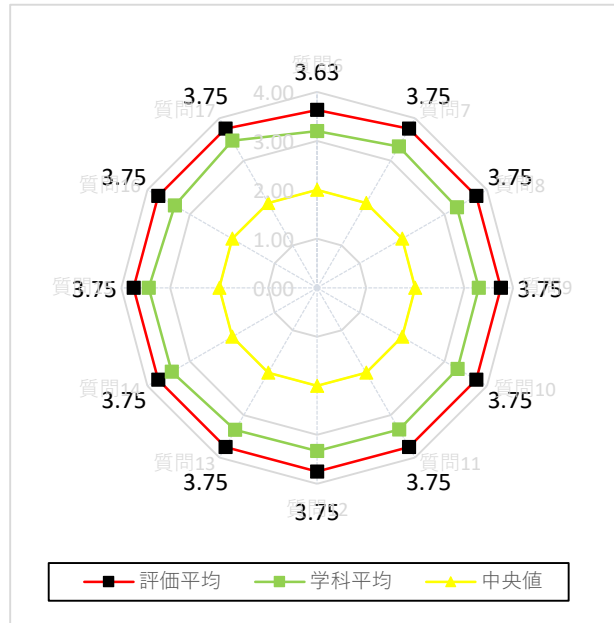
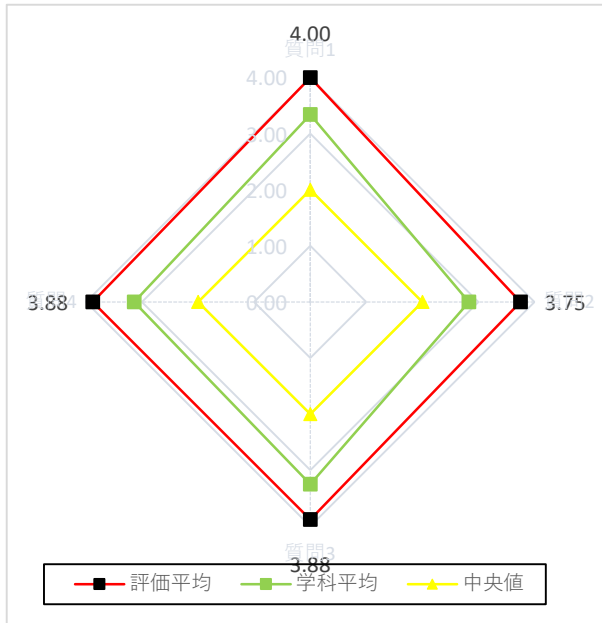
おおむね高い評価であった。実習も含まれているので、興味を持って取り組んでいた。

(3) 次年度に向けての取り組み

実習の充実を図り、実践力を養わせたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
子ども学部	心理カウンセリング		特別支援教育実習	14名

(1) 学生による授業評価結果



(2) 結果の分析と評価

教育実習の評価も評価分析するのか、疑問である。

(3) 次年度に向けての取り組み

授業評価の対象とすべきかどうか。